

雪の音で

Vol. 133

平成30年6月15日発行



巻頭言	石川県の最近の諸情勢と社会資本整備の動向	石川県土木部長 板屋英治	1
特集 1	一般的規模の橋梁補修工事における技術提案・交渉方式の適用(国道157号 犀川大橋橋梁補修工事)	国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所	2
特集 2	糸魚川市駅北大火を教訓にしたまちづくり ～火災に強いまちをつくるために求められること～	都市計画委員会	6
随想	6月になると	田中美知子	10
寄稿文	将来の自分の在り方について考える ～総合的な学習「未来の自分を見つめよう」の時間を通して～	新潟市立東青山小学校 小林香里	12
ちょっと気になる コーナー	戊辰戦争150年記念と八十里越え	中越トラベル(朝日交通(株)観光部) 常務取締役 山崎康裕	16
お知らせ	平成30年度(第36回)北陸支部定時総会	広報部会	18
お知らせ	平成29年度 「独占禁止法等遵守に関する講習会」報告	独占禁止法の遵守に関する特別部会	20
気分もリセット 体もリセット	基本のリラクゼーションアドバイス	宮崎夏海	22
	北陸支部活動報告	事務局	23
	会員名簿 各部会・委員会委員名簿	事務局	36
	編集後記	齋藤浩幸	

[題字]

元北陸地方建設局長
廣瀬利雄 揮毫

[表紙]

タイトル お馴染み河童橋から穂高連峰望む
撮影地 長野県松本市安曇上高地
撮影者 猪俣孝之

[裏表紙]

タイトル やっとお目覚めかな 中川橋
撮影地 長野県松本市安曇上高地
撮影者 猪俣孝之

巻 頭 言

石川県の最近の諸情勢と社会資本整備の動向

石川県 土木部長
板屋 英 治



北陸新幹線金沢開業から、はや4年目を迎えました。開業以来、金沢市をはじめ県内各地に国内外から多くの観光客が訪れ、観光産業をはじめ、地域の社会・経済活動等は引き続き堅調に推移しているところ です。

このような中、2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催、2022年には北陸新幹線の敦賀延伸が控えており、これらの観光需要等のインパクトに対し、本県の文化・歴史、自然環境の魅力を享受し、良質の体験をしていただくための更なる受け入れ環境の整備・充実が喫緊の課題となっています。

そのため、今後国内外の多くの来訪者をお迎えする上で必要であり、本県の魅力を高めるための生活環境の向上、経済活動の支援等の中心を担う、道路、港湾などの交流基盤の整備を積極的に進めていくこととしています。現在、『ダブルラダー輝きの美知』構想に基づき、「のと里山海道」の4車線化、「加賀海浜産業道路」、「金沢外環状道路海側幹線」等の整備を推進しています。また、クルーズ、貨物両面での利用増大に的確に対応するため、金沢港において、国直轄の無量寺岸壁の工事と連携し、クルーズターミナル、コンテナ上屋等の再整備等を行う機能強化整備について、2019年度末までの完成を目指し、スピード感をもって推進しています。さらに、本県の歴史文化の全国発信のシンボル空間である「金沢城公園」についても、史実に基づき本物志向で鼠多門・鼠多門橋の復元整備等を進めるほか、主要観光地の無電柱化を進めるなど観光誘客に向けた魅力の創出に努めていきます。これらプ

ロジェクトの推進に加え、「いしかわ里山里海サイクリングルート」等の利活用促進対策、路面標示や案内サインの設置等、快適に利用していただくおもてなしの空間や環境の整備にも努めていくこととしています。

このような交流等を促進する取り組みにあわせ、県民生活の安全・安心の確保、生活環境の改善等に資する対策も着実に推進することとしています。昨年の出水期には、県内各地で豪雨が発生したほか、今冬には記録的豪雪に見舞われ、生活や経済活動に大きな影響を及ぼしました。本県のみならず、近年全国各地で自然災害が頻発している状況からも、河川・砂防等の防災・減災対策の推進、緊急輸送路等の災害時の初動・応急復旧を含む危機管理体制の充実強化を進めていきます。さらに、生活環境を支える上下水道の整備・管理、住宅政策等に関する取り組みも着実に進めていきます。

平成30年度を迎え、いよいよ平成も残すところあと1年となりました。新たな時代の幕が開けようとしています。本県としても、現在取り組んでいる事業をしっかりと仕上げるとともに、今後の中長期的な社会資本整備の青写真について具体化していく必要があると考えています。

建設コンサルタンツ協会の会員の皆様方におかれましても、住民の安全・安心を確保し、生活や経済活動を支える社会資本整備の一翼を担っていただいておりますことから、今後とも、一層の技術の研鑽を図り、本県の発展へご尽力いただくことをご期待するとともに、貴協会の益々のご発展を祈念申し上げます。

一般的規模の橋梁補修工事における技術提案・交渉方式の適用（国道157号 犀川大橋橋梁補修工事）

国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

1. メンテナンス系工事とECI

設計段階から施工者が関与する入札・契約方式であるECI (Early Contractor Involvement) は、我が国では平成26年の公共工事の品質確保の促進に関する法律（以下「品確法」）改正によって制度的な位置付けが与えられ、「国土交通省直轄工事における技術提案・交渉方式の運用ガイドライン」（以下、「ガイドライン」）が策定されているが、本工事での実施に向けた入札公告段階では数例の適用例しかなく、先行事例はいずれも数十億円、数百億円という大規模工事であった。

一方、橋梁補修に代表される既存施設の維持・更新等、メンテナンス系工事については、規模は小さいものの、以下のような理由から発注者が最適な仕様を設定できない、または仕様の前提となる条件の確定が困難な場合がある。

- ・ 調査・設計段階で不可視部分が多い
- ・ 対象が供用中の道路であり、施工に伴う交通規制や施工時の社会的影響（騒音等）等、配慮すべき要因が多い

また、受注者の側からみると、上記に加え、以下の原因から利益を確保しづらい工事とみられる傾向にある。

- ・ 現場環境や対象構造物がユニークであり、一般化された施工方法や工事積算に対する適合性が低い
- ・ 小規模・小ロットの工種が多くなり、積算基準と実勢価格の乖離が生じやすい

このような事情から、メンテナンス系工事は着手後の設計変更や工期延期が多く、採算リスクが高い仕事になりがちである。

これらの問題に対処する上で、ECIが有効と考え、一般的な工事規模である本工事でも適用することとした。

2. 犀川大橋の概要

（1）橋梁の概要と損傷状況

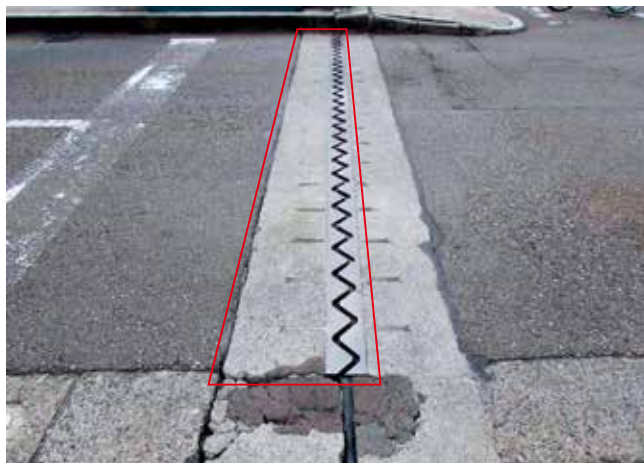
国道157号犀川大橋は、犀川（2級河川）を渡河する単径間ワーレントラス橋であり、大正13年の竣工から94年が経過し、平成12年には登録有形文化財に指定されている。



犀川大橋（国道157号）

本橋は金沢市の中心部に位置しており、路線バスが1日に1,220台通行するなど、市民生活を支える交通の要衝となっている。

これまでに5度の塗装塗替をはじめとする補修を行ったほか、近年では平成5年に大規模補修及び25t対応の補強工事を実施していたが、本工事の設計時点で、伸縮装置に床版との一体性が失われる損傷が発生していた。



伸縮装置の損傷

また、平成28年度に実施した橋梁点検結果で、下弦材格点部等における鋼材の腐食進行、床版の一部に遊離石灰を伴うひびわれが確認された。



格点内部の腐食



床版のひびわれ

3. 技術提案・交渉方針適用の要件

本橋の補修工事が品確法第18条の要件に合致するかについては、ガイドラインの記述に沿って以下が指摘できる。

(1) 発注者が最適な仕様を設定できない

橋梁及び周辺の道路状況からみて、交通規制による影響を最小化するため、施工者独自の技術を活用した施工方法が必要である。

また、大規模な交通規制を要する伸縮装置の補修を最適化するためには、適用可能な技術の収集や現地状況の詳細な調査、施工者が有する設計・施工に関する専門知識が必要である。

(2) 仕様の前提となる条件の確定が困難

橋梁の建設年次が古く、架設時の応力や各部材の応力状態が不明であり、設計条件の確定には足場を設置した詳細な現地調査や試掘が必要である。

4. 技術提案・交渉方式の手続き

(1) 事前説明会

前例のない発注方式であり、不調となる懸念が強かったため、公告直前に説明会を開催し、ECIの趣旨・概要・スケジュール等を説明した。参加は40者あり、関心の高さを確認できた。

(2) 入札公告

入札公告文及び入札説明書、特記仕様書等は、先行事例を参考に工事内容に即した修正を加えて作成した。技術協力業務は役務契約であるが、先行事例に倣い、記述は既存のプロポーザル方式や総合評価方式の記述を参考に作成した。

競争参加資格は、不調のリスクを意識しつつ、トラス部材を扱うことも考慮し、広く応札可能な資格要件を設定した。なお、コンサルタント登録は求めないこととした。

競争参加者の評価は、参加者多数の場合は段階選抜を行うこととし、その評価は通常の総合評価と同様に、企業・技術者の実績や地域精通度によるものとした。優先交渉権者の決定は、技術提案によるものとし、提案項目は以下の3項目とした。

- ・技術協力業務の実施に関する提案
- ・損傷状況に関する所見および追加調査等の提案
- ・伸縮装置の補修において有効と思われる工法等の提案能力

なお、技術協力の段階で設計の修正が予期されること、提案力を評価するという趣旨から、通常の総合評価とは異なり、技術提案に履行義務を課さないことを明記した。

(3) 優先交渉権者の決定

不調の懸念に反して、10者からの応募があり、辞退した5者を除く5者に対して、技術提案書に関するヒアリングを実施した。評価の結果、1位の者がほぼ全ての評価項目において優れていたことから、工事の優先交渉権者として決定した。

(4) 価格等の交渉

本工事にて採用した技術協力・施工タイプは、選定した優先交渉権者と技術協力業務を契約し、施工者の技術力を別途契約した設計業務に反映した後に、設計成果に基づき工事の見積りや工事請負契約の締結に必要な条件等について協議し、合意を目指すプロセスとなっている。(図1)

本工事では、発注者と設計者・施工者による設計調整会議を含め、計20回の価格等交渉を実施した。

この交渉の過程で、公告段階での不可視部分等に関する追加調査や、追加調査結果を踏まえた補修工法に関する協議、設計成果に基づく価格交渉を行い、優先交渉権者の価格の妥当性を確認した上で、施工者を特定した。



図1 施工者特定までのプロセス

(5) 有識者意見の聴取

品確法第18条2項及びガイドラインの規定に従い、中立かつ公平な審査・評価を確保するため、学識経験者等で構成する「犀川大橋橋梁補修工事における発注審査委員会」を設置し、公示前、技術審査段階、価格等の交渉段階の3段階で意見聴取しながら手続きを進めた。

5. 技術提案・交渉方式の導入効果

本稿の執筆時点では補修工事が完了していないため、ECIを導入した事による効果を全て確認できる段階にはないが、これまでの経過を通じて感じられたメリットとして以下の3点が挙げられる。

(1) 不可視部分の明確化

通常の設計では不可視部分となる箇所についても、技術協力業務にて足場設置や掘削調査を行うことで、十分な情報を得て設計を進行することが可能となった。

本工事では、足場設置による鋼材の損傷状況調査や垂直材の張力測定のほか、道路試掘による舗装・床版の状況調査等を行った。



足場設置による垂直材の張力測定

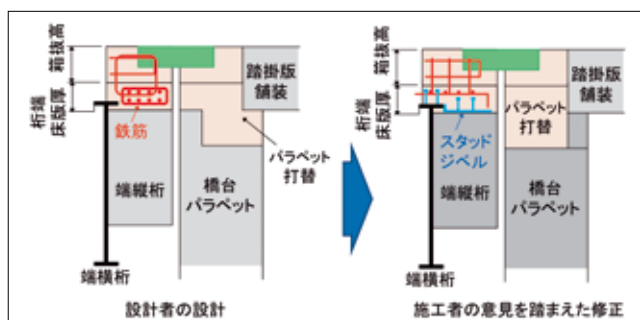


道路試掘による舗装・床版調査

(2) 施工者の知見を設計に反映

通常の設計では、設計段階で施工者の知見やノウハウを反映することは出来ないが、技術協力業務にて施工者が設計協議等に参画することで、工法やディテールの提案について、設計者・施工者双方の意見を聞きながら、より施工実現性の高い設計を行うことが可能となった。

本工事では、伸縮装置の取替えにおいて、設計者の当初計画では端縦桁上の床版打替が計画されていたのに対し、施工者から狹隘部のため配筋は不可能との指摘があり、設計者・施工者との3者協議により、スタッドジベルを活用した構造に変更した。



施工者のノウハウの反映例

（３）円滑な施工の確保

前述（１）、（２）の他、設計と並行して技術協力業務にて施工者が自ら施工計画書を作成することで、工事着手後の円滑な施工を確保しやすくなった。

本工事においても、技術協力業務があっても設計段階で不可視箇所の全てを明らかにすることは難しく、工事着手後の対応に委ねる部分があるにせよ、通常の補修工事に比べ、設計詳細やその後の修正といった部分では大幅に軽減されたと感じている。

6. 地域の理解促進に向けた取組み

本工事は、金沢市の中心部で実施し、施工メニューの中には交通規制を伴うものもあることから、近隣の住民等を対象に、橋梁の長寿命化やインフラメンテナンスの重要性を伝えるとともに、交通規制を含む本工事全般への理解・協力を得ることを目的に、犀川大橋を題材とした写真展を開催した。



犀川大橋写真展

7. 手続きにおける課題

前述したように、優先交渉権者の選定課程において、提案力を評価することを意識して技術提案の募集と審査を行ったが、その過程で以下の課題が見出された。

（１）実現確実性の評価

技術提案に履行義務を課さないこととした結果、提案の幅が広がる一方で、優れたアイデアで高い効果が期待できるが実現確実性に疑問がある「野心的な提案」と、一般的だが実績に裏打ちされた「堅実な提案」の双方の提案があり、評価者による評価が分かれやすい状況となった。

（２）ヒアリングにおける応答の反映

ECIでは技術協力業務の相手方と工事主体（候補）の双方を選定するが、ガイドラインでは技術提案後に実施するヒアリングにおいて、ヒアリング自体の審査・評価は行わないこととしている。

大規模な工事の入札で、ヒアリングが大きく影響して受注者が決まることは適当とは思えないが、技術協力業務の相手方を選ぶ点からみれば、提案力を評価する観点の一つとしてヒアリング時の応答をある程度加味することも必要ではないかと感じた。

（３）ECIの技術提案・評価への対応力

技術提案や評価における手続きの過程において、対応に課題があると感じた。

発注者側には「提案力」を審査する能力が求められるが、それを見極めるための質問や評価のとりまとめに苦心した。また、競争参加者側からの提案については、現場に即したものが期待したほど多くなく、教科書的・一般的な内容に留まるものが多かった。

（４）競争参加者の技術協力業務に対する理解

一部の競争参加者は、設計業務との関係性において、技術協力業務の範囲を狭く捉えて、既存の設計成果の範囲内での技術提案となるなど、技術協力業務の理解不足が提案内容にまで影響した例が見られた。

8. 今後に向けて

本工事は、現在、補修工事を実施している最中であるが、発注者・設計者・施工者（優先交渉権者）の各々が持っている技術的な知識や経験を共有し、3者協議の場を密に持つことで、工事におけるフロント・ローディングを具体化し、効率的かつ品質の高い施工に繋がったのではないかと考えている。

本事例は参考額が0.5億円～1.5億円と、直轄工事の中でも一般的な規模であったが、本事例の遂行を通じて、このレベルの工事規模でもECIを適正かつ効果的に適用できることを示すとともに、後に続くECI活用工事への教訓を得ることができれば幸いである。

ECIが、希にしかない大規模工事だけではなく、小さな規模でも技術的に高度な能力が求められる工事に広く活用されていくことを期待したい。

糸魚川市駅北大火を教訓にしたまちづくり ～火災に強いまちをつくるために求められること～

報告：都市計画委員会

1. はじめに

平成28年12月に発生した新潟県糸魚川市での大火をきっかけに、国民の火災に対する防災意識は高まりを見せています。今後、火災被害を拡大させない安全な都市形成のために、主に防火や消防などの視点で何が必要なのかを考え、誰もが安心して暮らせるまちづくりにつなげていきたいと思っています。

本セミナーでは、東京理科大学大学院国際火災科学研究科教授の関澤 愛先生を講師にお招きし、ご講演をいただきました。関澤先生は、1974年、京都大学大学院工学研究科修士課程を修了後、自治省消防庁消防研究所研究員、独立行政法人消防研究所研究統括官などを務められ、2010年より現職で、総務省消防庁消防審議会専門委員にも就かれています。

最初に、寺本支部長から主催者を代表してご挨拶がありました。また、会場のエントランスホールに、糸魚川大火状況のパネルと建設コンサルタントの役割のパネルの展示を行いました。



寺本邦一支部長の開会挨拶

2. 開催プログラム

日時：平成30年1月13日（土） 15:00～17:00

場所：新潟県民会館 小ホール

主催：（一社）建設コンサルタンツ協会 北陸支部

後援：国土交通省北陸地方整備局、新潟県、新潟市、糸魚川市、新潟日報社

3. 講演概要

1) 糸魚川市大火をどう受け止めるか



関澤愛教授による講演

糸魚川市大火は、平常時の都市大火としては、41年前の1976年、酒田市大火以来の最も大きな規模の大火です。私自身、「平常時の都市大火は起きない世の中になりました。地震時の都市大火のリスクは残っているけれども、平常時はほぼコントロールできています」という話をしていたのです。しかし、それが崩れましたので、非常にショックを受けたというのが正直なところです。

糸魚川市大火は、風向きが南から北の方向でしたので、南北の縦方向が約300m、東西の横方向が一番広いところで約150m、縦長で焼失面積は約4haでした。しかしながら、焼損床面積は30,412㎡で、消防庁の消防白書における大火の定義である1万坪（33,000㎡）には達していませんでした。

40年前に起きた酒田市大火は、西から東の方向に燃えまして、焼失面積は約22.5haでした。強風下における市街地大火の場合は、全て熱気流が風下側に来ますので、風上側はほぼ燃えないのです。

延焼範囲的な話で言いますと、燃えている側に空気が流れますので、真空にならないために、風横側からも空気が巻き込まれまして、炎が風下側に行く。従って、風下側には、消防隊さえ入れないほど、強い熱気流が来まして、ほとんど消火活動ができない状態となるのです。そうした場合、消火活動の主戦場は風横側になるわけです。

2) 市街地火災に拡大した三つのポイント

私は、おとしの12月22日に糸魚川市に火災が起きた時、実はNHKから夕方ニュースに出てくれないかと電話がかかってきました。私は慌てて、ニュースを見たり、インターネットで場所を調べたりして、思ったのが次の三つでした。

一つ目は、火元及びその周辺の街区は木造建物が密集する地域であったこと。二つ目が、強風と飛び火による複数の火災が発生したこと。三つ目は、小規模消防本部の消防力に限界があるということです。

気象庁から深夜を越えると西寄りの風になる可能性があるという報告がありましたので、私は、西寄りの風になると今度は東側に向けて燃え出すということを、糸魚川市の消防本部の人にTVでメッセージを伝えました。翌日の記者会見の時に、消防本部長さんが「要因は三つあります」と言ってくれましたので、メッセージは伝わったのかなと思いました。

最初に飛び火が起きた時、どこかの範囲が燃えたかという火元の密集市街地です。消防もここで絶対に止めるという態勢をとっていたのです。しかしながら、実際には、その背後の100m先の方で飛び火が次々と起きて手が付けられなくなった。

小規模本部に限界があるというのは、糸魚川市は人口4万5,000人で、消防のポンプ車が6台しかありませんでした。また、6台といっても、すぐに集まらない。消防団の協力も得て、火元近くの20棟の火災は消す態勢はとっていたのですが、飛び火で二つ、三つ起きた時には、お手上げとなってしまいました。

では、どうすればいいのかというと、もちろん道幅を広げたり、建築の不燃化したりするのは基本ですが、それは一朝一夕にはいきません。糸魚川市でいえば、最後の都市大火が昭和7年です。ということは、この地区には、築85年の純木造建物がたくさん残っていたわけです。

3) 木密地域の火災を市街地大火にさせない工夫

私はビフォーアフター方式と呼んでいるのですが、TV番組では柱と梁だけを残してほとんど壊していますが、あの方式を使えということです。建築行政の方には目をつぶっていただき、内装工事の際に小屋裏まで、隣の家と家との間には不燃ボードを入れるなどして、一つの住戸で火災を止めるような建築的対策はできるはずです。

もう一つは屋根瓦です。古い屋根瓦は、新しい屋根瓦に吹き替えましょうと。

東京都の墨田区では、従来の補助制度を戸境壁を入

れたり、窓に網入りガラスを入れたり、不燃化を図るだけで300万円補助するというふうに広げました。基本は建物構造全体の不燃化が望ましいのですが、少しでも不燃化することが重要なと思います。

糸魚川市の復興まちづくり計画でも、市民の皆さんは、雁木通りを元の本の現しで再現してほしいということでした。私は、完全な木の雁木は、火の通り道になりますから、フェイクの木材にするとか、あるいは部分的にストッパーを入れるなどの対策は必要ですと申し上げました。

消防については、長時間の消防活動に備えた消防水利が必要です。海の水を地下配管で引き込んで、それをポンプアップして市街地の防火水槽に入れると、海の水ですから無限に入ってくるわけです。船橋市に現存するものがあるので、提案させていただいたのですが、復興まちづくり計画の中で、糸魚川市でもそういうものができるかと伺っています。

それから、常備消防、消防団はもとより、地域の自主防災力も加えた飛び火警戒は、やらないとダメです。私は最近こう言っています。火を消すことは、消防の人に任せる。ただ、女性や男性を問わず、町内会で元気な人は、出来るだけ残る。火災は一定程度戦う災害なのです。津波や土砂崩れは、逃げるが勝ちです。しかし、市街地火災は、地域防災力で消防力の不足を補わないと、あなたの方の家もみんな焼けてしまいますよという災害なのです。

強風下でも、風下側の延焼速度はせいぜいで時速数百メートルです。人は時速4kmぐらいです。延焼速度の10倍です。火災が迫って、これ以上危ないと思ったら、風横側に行けば、すぐに逃げられるのです。命は安全です。で、一定程度は残ってウオッチしてほしい。飛び火で誰々さんの家から煙が出始めたということを消防団の人に伝えて、消してもらおう。ウオッチする目が多ければ多いほど、飛び火、着火は防げます。それは皆さんでもできます。

4) 今回の火災の最大の教訓は何か

最大の教訓は何かといいますと、現代においても強風などの不利な条件がそろう場合には、木造密集市街地では、地震時だけでなく、平常時においても市街地火災が現実起きるということです。

この対策として、公設消防力、消防水利の整備が重要ですが、これに加えて、個々の家屋や街区単位での延焼防止対策、さらには地域住民による自主防災体制の整備が重要と申し上げたいと思います。

改めて、飛び火警戒が必要だということです。この40年間、都市火災は発生しなかった。しかしながら、糸魚



熱心に聴講する参加者

川市で大火が起きた時に、消防職員でさえ、強風下の時には飛び火を警戒しなければいけない、ということが継承されていなかったのです。

5) 平常時の都市大火終焉に果たした消防力常備化の画期的役割

昔の東京オリンピックのころは、市街地火災は年に1件くらい発生していました。それから一貫して減り、1976年に酒田市大火が起きて以降、2016年の糸魚川市大火までゼロ行進でした。

なぜ、40年間こうなのか。市街地が不燃化したから、あるいは鉄筋コンクリートの建物が増えたことも一つの理由だと思いますが、40年間ゼロを続けたのは、常備消防力、公設消防力の整備が一番大きな要因です。

日本の全人口を分母として、市町村の公設消防機関が管轄している人口を分子に置いた場合、どれだけが24時間待機体制の常備消防でカバーされているかということ、今は一部の地域を除いて100%です。

1965年の東京オリンピックから10年くらいで一気に常備消防が整備されたのは、当時の自治省消防庁が消防力の基準を整備したからです。今は消防整備指針になっていますが、密集街区については、このように消防署やポンプ車を配置しなさいと全国統一の基準を整備したのです。

その消防力の基準で、キーワードは「8分消防」です。

放水を、出火から8分以内に開始することができれば、隣家類焼防止が可能だというモデルを作ったのです。

放水開始までの限界時間が8分で、通報時間として2分、出動指令に30秒、到着して放水準備に1分、それらを8分から差し引くと、消防ポンプ車が走れる時間は4.5分です。分速400m（時速24km）で計算すると1,800mとなります。

市街地は直線的に行けないので、矩形状に曲がって行くとして $\sqrt{2}$ で割ると約1,300mです。密集市街地だとしたら、消防署は少なくとも1,300mの半径に収まるように配置するというわけです。

消防署で最初に駆け付けられるのは、1隊か2隊なので、ホースを伸ばしても3本か4本です。最初の部隊で消せるのは、1棟か2棟の火災です。そこで勝負に決着をつけないと負け戦になるのです。

私は1996年から15年間の全国の火災統計データを基に、建物火災の発生頻度と焼損棟数を推計したのですが、1棟で燃えて終わるのが80%、2棟までが10%、そして、3棟、4棟となっていくのですが、ほとんどゼロです。理論的な確率からいうと、99%は焼損棟数5棟以内、20棟以上燃えるケースは0.01%、1万件に1件です。日本では、毎年、火災件数が減ってきていて、建物火災は2万件を切ります。これが日本の消防力の実力です。都市大火が起きない一番の要因は、常備消防力の整備のおかげだ

といっても間違いではありません。

しかしながら、糸魚川市のような火災が起きてしまいました。それから、地震時には、阪神・淡路大震災で起きたような市街地大火が起きており、また、全国に木造密集市街地が更新もされず残っています。

阪神・淡路大震災では、5,000人が地震の倒壊で亡くなりましたが、500人が火災で亡くなっています。長田区は、耐火造のビルがたくさんあり、木造密集ではないのです。当時、長田区には、8万人ぐらいが住んでいて、ポンプ車が出るのは4隊でした。

13軒の火災が発生しまして、長田消防署は他に応援を頼みましたが、どこも同じです。結局、13軒に対して4台の消防車で対応しなくてはならず、2軒は消しましたが、11軒は市街地大火となったのです。

これが他の都市で起きない保証はありますか。地震時も、飛び火ではなくて最初から同時多発火災が起きる可能性があるということです。

6) 火災被害軽減対策の課題

地震時の同時多発火災と延焼危険、それに対する最適な消防力運用というのが、私の長年のテーマとなっています。幾つか対策はあるのですが、未完のものばかりです。

まず、出火防止です。地震時の出火原因は、5割以上が電気火災です。感振ブレーカーの普及に努めていますが、1%くらいしか普及していません。

それから、初期消火です。家庭で消火器を備えていますか。消火栓は消防隊が使うものですが、今や住民が使うという地域も出てきています。

今日は建設コンサルタンツ協会なので、土木の人に特に言いたいのですが、水道の耐震化は結構進んでいる東京でも33~34%です。水道事業自体は独立採算制なのです。赤字体質でぎりぎりです。老朽配管を最新の耐震配管に替えるとなると、年1%ずつしか耐震化になりません。

地震時に防火水槽の他に消火栓が使えると、非常に消防力がアップします。スタンドパイプといって、口径だけ40mmに替えて、住民でも使えるサイズに変更してホースを伸ばすと、ポンプなしで水圧で消火できるので、今、東京では圧倒的にスタンドパイプが流行っているのです。しかし、断水したら、あるいは水圧が低下したら困るので、耐震化を進めなくては行けないのですが、進んでいないのです。

何が大事かというと、水道局と消防局で事前にコミュニケーションを図っていただき、消防にとって、地震直後は水が死活問題なのだから、耐震化を一刻も早く進めてほしいと。そのためには、市町村の首長さんか、国で言うとトップが国土強靱化計画の中で水道の耐震化を入れないとダメです。

時間もきましたので、これで終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

4. おわりに

閉会の挨拶として、糸魚川市産業部復興推進課 斉藤孝課長よりご挨拶がありました。

斉藤課長からは、大火以来、国土交通省をはじめ、新潟県、関係機関の皆さんからのご協力、さらに全国からの義援金に対して御礼がありました。

また、昨年8月に策定した復興計画の着実な推進に向けて、関澤先生のご講演にあった海水の中継送水システム、200t級の防火水槽、消火栓も65mmを40mmのホースに替えて、市内で約10地区がモデルで訓練していること。さらに、先生から「都市計画は孫たちのためにある」という力強い言葉をいただき、子ども消防隊を発足させ、この大火を風化させないように取り組んでいると報告がありました。



斉藤孝糸魚川市復興推進課長の閉会挨拶

2時間にわたるセミナーでしたが、参加者からは、飛び火の被害を防ぐにはどうしたらいいのか、ヘリコプターを活用した消火活動を進めてはどうかなどの質疑応答もありました。この冬最大級の寒波による大雪で交通が乱れる中、約200名の参加者があり、盛況な会でした。

最後に、ご協力頂いた皆様に感謝申し上げ、本セミナーの報告を終わります。

随想 6月になると

田中美知子



初夏になると、思い出すのは蒲原まつりのことだ。毎年6月末から7月初めにかけての3日間、沼垂蒲原地区で催されるが、この祭のニュースを目にすると、夏の到来を感じて心が少しざわつく。

幼い頃は、姉とお揃いの母の手製の浴衣に赤い鼻緒の下駄を履き、夕方から家族で出掛けるのが待ち遠しかった。ある年には直前になって両親が喧嘩を始めて陰悪ムードになり、泣く泣く祭見物を諦めるという理不尽なこともあった。

中学生の時は蒲原地区が校区であり、確か祭には一度帰宅してから行くという規則があった。しかし、そんな決まりもどこ吹く風で、学校帰りに友達と露店をふらついた。垣間見る見世物小屋やお化け屋敷の妖しさのとりこになり、見回りの先生に見つからないように、こっそりぽっぽ焼きを買い食いするのも楽しみだった。

当時は、蒲原神社の周辺から長く続く露店のはずれに沢山出ている植木市を眺めるのも、子供ながらに好きだった。時節柄、祭の期間は大抵雨になり、雨に濡れて淡い水色や薄紫の美しい西洋紫陽花の鉢植えが私のお気に入りだった。多分、近所の映画館で見た「あじさいの歌」という映画に出てくる古い洋館と、そのうっそうとした庭に群れて咲く紫陽花にひどく憧れていたのだと思う。

植木市に通い詰めていると、店のおじさんが明日で最後だから明日も来たらおまけしてやるよと言った。祭の最終日に勇んで出掛けて行き、待望の紫陽花を安く手に入れたことは言うまでもない。

鉢植えを抱えて幸せな気持ちで歩いていると、サラリーマン風のスーツ姿の若い男性がすれ違いざま「ハイドレーン」とつぶやいて行った。一瞬のことで男性の顔もよく見なかったが、その「ハイドレーン」という初めて聞く

言葉の響きが印象的だった。何を言われたのかと訝しく思ったが、それが紫陽花の英名ハイドランジアのことと後で知った。男性がなぜあのような花の名前を知っていたのかと不思議に思えた。随分昔の光景が、夕暮れ時のアセチレンランプの匂いや光とともに、今でも閃くように思い出される。

そしてやはり6月というと、新潟生まれの私には忘れられないのが、半世紀以上も前のことだが、6月16日の新潟地震である。本棚に色褪せて表紙も取れなかった地震の作文集「天も地も見たくない」がある。当時、新潟日報事業社が発行した児童生徒の作文集で、中学2年生だった私の書いたものも載っている。久しぶりに読み返してみると、その時の様子が目に浮かぶ。(以下、作文集より一部抜粋)

【「津波が来るぞー。」と言う声に友達とつないでいた手を離して走り出した。後から人々が悲鳴をあげながら走って来る。地割れの中に自動車がめりこんでいる。〈地割れに落ちたら大変だ〉膝まである冷たい泥水の中を、人に押され転びそうになりながら走る。〈もう、そこまで津波が来たのでは〉鋭い恐怖が襲う。家に着くと玄関の戸は流れ、家の中までどす黒い水が流れ込んでいた。家の中へ入れそうもなく、隣の家に入れてもらう。家族は小学校へ避難したと聞きほっとした。外を見ると、水の中を赤ん坊をおぶった母親がよろめきながら歩いてきた。すると

ズボンをまくった高校生が「おばさん大丈夫ですか」と励まし「こっちが浅いですよ」と教えてやった。近所の人はかごにいっぱいサイダーを買っている。そういえば水道が止まってしまったのだ。夕方姉と遠くまで水をもらいに行った。給水車の後には人の列が続き、私たちの番は百人も先だった。日は暮れるばかりで3時間も待ったが、給水車の水はなくなってしまい、がっかりして空バケツを下げて帰ってきた。】

この作文集が発行された時、先生がクラスの前で読んでくれた。少し気恥ずかしかったが、女子生徒の中には大変な出来事を思い出してか、すすり泣く者もいた。中学校の校舎はひどい被害を受け、私たちは急きょ建てられたプレハブの教室で授業を受けていた。トタン屋根が焼けるように暑い夏は、男子生徒が屋根からバケツで水を撒いたり、冬は雪下ろしに早くから登校した。しばらくは体育館も使えず、狭いプレハブでの窮屈な毎日に、生徒の喧嘩や怪我也多かった。

地震から数日後、電気やガスは思いの外はやく通じたが、大事な米も水浸しになり食糧もなく困っていると、まだ水の引かない家の前の道を、私の友達で近所の米屋さんの娘チエ子を通りかかった。母が窮状を訴えると、中学生のチエ子がすぐに水の中を米の入った重い麻袋を担いで持って来てくれたという。今は亡くなった母が、その時のことを有り難がって何度も話したものだ。

そんなチエ子とは今も何十年来の親友で、会うと彼女の実家の米屋の話に花が咲く。私たちが子供の頃、米屋にツルタさんという若い女性の事務員がいた。鮮やかな赤い口紅、パーマのかかった長い髪に帽子を被って出勤する姿はハイカラで、女優のような人と子供心に感じた。チエ子には悪いが、お世辞にもきれいとは言えない狭い店の窓口で、ツルタさんはいつも澄まして座っていたので「掃き溜めに鶴」ということわざが浮かんだ。言い得て妙な形容に我ながら感心しきりだった。

チエ子は入口に脱いであるツルタさんのハイヒールをこっそり履いたり、ツルタさんが帰った後の机の引き出し

を開けて、セルロイドの化粧箱を覗いてみたりしたそうだ。そして、自分の母親の物とはあまりに違う白粉や口紅のえも言われぬ香りを、うっとり嗅いだという。しかしそれがばれてしまい、父親にこっぴどく叱られ、あげくには米俵の中に閉じ込められてしまったそうだ。米俵の中で暴れまわって藁の隙間から両手を出した姿は、まるで雪だるまのおばけだったわと言う彼女の話が愉快で、二人でげげら笑ってしまった。そして、なぜあんな美人が米ぬかだらけのうちの店に勤めに来たのか、いまだに謎だと言うチエ子に私も全くねと頷くのである。

古い話に終始してしまったが、子供の頃の思い出は、つくづく脳天気な自由で明るいものだ。年を重ねてここ数年は、兄弟や夫の病気、元気だった兄嫁もあっけなく逝き、自分自身も手術を経験した。若い時には考えもしなかった生老病死や愛別離苦などという楽しくない言葉も身近なものに思える。息子のバンドの初めての海外ライブを台湾に見に行くことも、手術後の体力が不安で諦めてしまった。しかし元気を無くしてばかりではいけない。映画監督コッポラ氏は「子供には自分の好きな事をなんでもさせてあげなさい。好きな事に打ち込んだ自身の半生を気に入っている」と語っていたが、私もそろそろまた脳天気な私に返って、自分のしたい事、好きな事を第一に考えてみたい。いつだって遅くはないだろう。もしかしたら気持ちだけでも、また「ハイドレーン」の少女に戻れるかもしれない。そして自分の人生を気に入っているといたいものだ。

プロフィール 田中美知子

1950年 新潟市生まれ

1993年 サッポロビール ハガキエッセイ

「私の冬物語」優秀賞

1994年 「扉を開けたら」ロマンの泉美術館物語に執筆

2003年 住友信託銀行「60歳のラブレター」金賞他

将来の自分の在り方について考える ～総合的な学習「未来の自分を見つめよう」の時間を通して～

新潟市立東青山小学校 小林香里

はじめに

昨年度、6年生は総合的な学習の時間に「未来の自分を見つめよう」というテーマのもとに、それぞれの将来について考えました。その学習の一環として、建設コンサルタント協会北陸支部のみなさんから、仕事内容や仕事をする上で大切にしていることなどのお話を伺いました。

「将来の夢は何ですか」と子どもたちに問うと、「医師」、「サッカー選手」、「保育士」などの答えが返ってきます。その職業の多くは、子どもたちが今までに出会ったことのある職業でした。しかし、世の中には他にもたくさんの仕事があり、人々がかかわり合いながら社会を形成しています。そこで、子どもたちがよく知らない職業であり、且つ、子どもたちにとって身近な職業である「建設コンサルタント」の方のお話を伺わせていただきたく、依頼をしました。

この講演をきっかけに、子どもたちが何を考え、どのように考えが変容していったのかを簡単に記させていただきます。

1. 建設コンサルタントとは？

子どもたちは、「建設コンサルタント」という名前を聞いても、実際にどのような仕事をしているのかは分からない様子でした。そこで挙げていただいたのが「関屋分水路」です。

東青山小学校の校歌の中には「信濃大河と人の力が開き築いた豊かな水路」という歌詞があります。水路とは関屋分水路のことです。関屋分水路は、子どもたちが登下校やマラソン大会の時に見ている、なじみのある風景の一つです。

その他にも、遊歩道、道路の青ライン、路線バスのスロープなど、身近な施設、設備を設計してくださったのが、建設コンサルタントさんとのことでした。普段から見ている施設の設計に携わっていると知ったり、「家から一歩出たら、職場だと思っている」というお話を聞いたりして、建設コンサルタントの仕事が少し身近に感じられたようでした。

2. 具体的に何をしているの？

建設コンサルタントの仕事は「調査」、「計画」、「設計」とのことでした。特に子どもたちの興味を引いたのは、「もし、災害が起こったら」のお話でした。

建設コンサルタントの方は、災害が起こるといち早く被災地に行き、現地の状況調査、壊れた道路などの直し方の検討、設計を行うそうです。災害復旧の場面ではボランティアの方々の活動に目が向けられがちですが、被災地の復旧には建設コンサルタントの方の力が不可欠であることを知り、子どもたちは驚きの表情を浮かべていました。

調査、計画、設計となんとなく仕事内容が分かってきましたが、具体的にどのようなことをするのかはまだあやふやでした。そこで、「ペーパータワーゲーム」を活動に取り入れて体験しました。



講演会のはじまり

3. ペーパータワーゲームに挑戦！

ペーパータワーゲームとは、紙とテープだけを使って、できるだけ高く紙を積み上げるゲームです。

＜使うもの＞

- ・新聞紙
- ・いろいろな大きさ、硬さの紙
- ・セロハンテープ

＜ルール＞

- ・時間内に一番高く積み上げたチームの勝ち。
- ・紙を折る、手で切るのは可。

初めてやりましたが、ルールは簡単で、見ている側も楽しく、子どもたちは熱中して参加していました。ゲーム中の様子をご紹介します。



ペーパータワーゲームのルール説明中。集中して説明を聞きました。

まず、ゲームを始める前に行ったのは「作戦タイム」です。紙を触って質感を感じたり、厚さを調べたりする子どもたち。紙やセロハンテープの使い方を提案する子どもたち。倒れにくい、強度のあるタワーにするための方法を考える子どもたち。チームによって作戦の立て方はさまざまでしたが、みんな考えていることは同じ。「高いタワーを作るためにはどうすればよいか」です。



「こうやって2枚を組み立てれば…」



「作戦をメモしておこう!」

いよいよタワーの組み立てです。ここでチームごとの大きな違いが出ました。どのチームも作戦タイムの時に「高いタワーを作るためにはどうすればよいか」を考えていたはずですが、いざ作業となると違いが浮き彫りに。

どんどん高さを積み上げていくことができたチームの特徴は、「どの紙を」「どのように」使うのか、「誰が」「何をするのか」を話し合うことができていたということです。作業への取りかかりがスムーズで、また、強度の高い、安定したタワーを作ることができていました。

作戦が十分に立てられていなかったチームは、個々の考えの基で組み立てていたため、統制が取れておらず、組み立ててもすぐに崩れてしまうタワーが多くありました。



「安定した土台をつくるぞ!」



「崩れてしまった…どうしてだろう?」



「計画していたものと違うタワーができた。高くできたけど、倒れないか心配だな。」



一番高いタワーを作ったチーム。土台がしっかりしていました。

4. ペーパータワーゲームを通して

子どもたちはペーパータワーゲームを通して、建設コンサルタントの仕事である、「調査」、「計画」、「設計」を体験しました。

紙の素材や硬さ、厚みを調べるのが「調査」。その紙をどのように使うのかを考える作戦タイムが「計画」と「設計」です。実際に立てるのは建設コンサルタントの仕事ではありませんが、安定した頑丈なタワーを立てるには、建設コンサルタントの仕事がとても大切であると実感したようでした。

ゲームの後には、建設コンサルタントの仕事である「調査」、「計画」、「設計」において大切なことをお話していただきました。

①コミュニケーション力

計画や設計は自分一人の力では成し遂げることはできません。様々な人の意見を聞き、チームでよりよいものを作り上げることが大切です。

②経験+知識=技術力

どんなに現場で経験を積んでも、知識が伴わなければ、納得できるものは作れません。逆に知識だけがあっても、経験を積もうとしなければ、同じようによりよいものを作ることはできません。どちらがかけてもいけない、両方大切であるそうです。

③誠実さ

自分の考えを押し通すのではなく、相手の気持ちを真摯に受け止めることが大切です。相手の気持ちを考え、

相手の立場に立って物事を考えることで、受け入れてもらえるきっかけを作ることができます。

これは、学校でも、友達との関係づくりで言えることだと思います。自分のことを分かってほしいと思うならば、まずは相手のことを考えることでより良い人間関係を築くことができるとお話ししていただきました。



「小学校で生活するときにも役立つことがたくさんあるね」



熱心にメモを取る子どもたち。パワーポイントにくぎ付けでした。

5. 未来に向けて

講演をしていただく前は、子どもたちは「サッカー選手になりたい」「医師になりたい」と思うばかりで、具体的に何をすればよいかは分かっていない状況でした。

インターネットや本を使って、希望する職業に就くためにはどうすればよいかを考えることはありましたが、「〇〇高校に入って、〇〇大学に行く。そのために勉強を頑張る。」この程度の思考で終わっている子どもがおり、将来の夢を叶えるためには勉強をすることが大切であると考える子どもが圧倒的に多くいました。

確かに、知識は大切です。ですが、それだけを頑張ればよいわけではありません。今回、建設コンサルタントに限らず、将来、どのような職業についても大切にしたいことをお話して下さったことで、考え方を変えた子どもが出てきました。「保育士になるために、下学年に優しくしたい。」「勉強で困ったら友達に相談をする。友達が困っていたら、自分が助けたい。」など、勉強という知識だけでなく、人間力の必要性を感じ、それを行動に移したいと考える子どもがいました。

子どもたちが、将来、どのような職業に就くのかは分かりません。しかし、今回お話していただいたことはどのような職業にも繋がることです。大変有意義なお話をいただき、非常にありがたく思っています。

おわりに

今回、建設コンサルタントという職業を初めて耳にした子どもが多くいました。私自身、「建設コンサルタント」という職業名は初めて聞きました。打ち合わせにおいでいただいたときに何度も説明をしていただいたにもかかわらず、なかなかイメージをすることができないお仕事でした。

大人でも理解することが難しい仕事内容を、子どもたちが理解しやすいようにプレゼン資料を使ったり、ゲームを取り入れたりしながら説明してくださいました。

子どもたちは、建設コンサルタントの仕事は身近にあるということや、建設コンサルタントの仕事のやりがいを感じることができました。また、「建設コンサルタントの方が仕事をする上で大切にしていることは、今、学校で生活している私たちにとっても大切である」ことに気付かせていただいたことが、一番の大きな成果だと感じています。そのきっかけを作ってくださった講演をしていただいたことに深く感謝をしております。



子供たちからの感謝

戊辰戦争150年記念と 八十里越え

中越トラベル（朝日交通㈱観光部） 常務取締役 山崎康裕

NHK大河ドラマ「西郷どん（せごどん）」が放送されておりますが、今年は戊辰戦争150周年にあたる年です。戊辰戦争は、皆様もご存じだとは思いますが簡単に説明致します。

戊辰戦争

1868年「鳥羽・伏見の戦い」に始まり、江戸城無血開城、白虎隊で有名な会津などの戦いを含む「東北戦争」と続き、1869年に蝦夷地（現在の北海道・函館）五稜郭の戦いで終わる旧幕府軍と新政府軍の内戦を言います。

戊辰（ぼしん）とは、十干・十二支を組み合わせる表した干支で、1868年が戊辰の年に当たる為、「戊辰戦争」と言われております。

新潟との関わり

戊辰戦争において新潟では、長岡藩家老 河井継之助が新政府軍・旧幕府軍に対し中立な立場を示すと共に会津藩の赦免（しゃめん）を求め幕府軍と交渉（いわゆる「小千谷談判」）しましたが決裂し、長岡藩も討伐の対象となり、北越戊辰戦争の始まりとなりました。

その後、長岡城の落城、加茂会議（新政府軍に対抗するための軍議）、長岡城奪還、再び落城となり、南会津へ敗走する際に通った峠が「八十里越（実際には八里程度）」となります。

新潟県三条市（弊社所在地）には、奥羽越列藩同盟軍（会津・庄内藩の赦免を要望する藩の同盟）の宿営所となった「真宗大谷派三条別院（三条市本町2）」や、宿営



本成寺



八十里越

していた兵士たちが酒を酌み交わした別院参道の「本寺小路」、「戊辰戦争役記念碑（三条市曲淵）」、八十里越に向かう道中の「赤坂古戦場跡」、八十里越の入口の吉ヶ平集落があります。ここから南会津の只見町までを「八十里越」と言っております。この峠を戦で負傷していた河井継之助は、担架で運ばれ南会津へ逃れました。その後も戦が続き、会津戦争へと繋がってまいりました。

現在では、文化庁の「歴史の道百選」に選ばれており、司馬遼太郎の小説「峠」の舞台となった場所としても有名です。道路の整備も昭和61年度に直轄権限代行で事業実施に着手し、現在でも工事が行われております。

貴重な体験

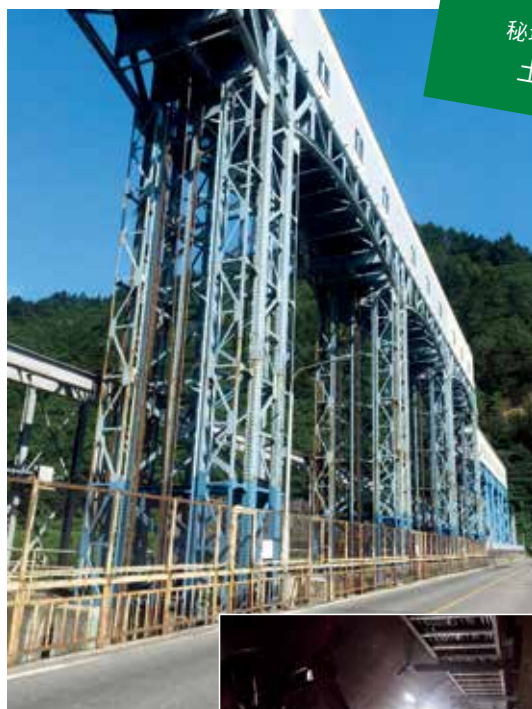
道路もまだ整備段階ではありますが長岡国道事務所と三条市が協力し企画した「秘境八十里越体感バス」と言うツアーがあります。一般車両は、通行止めとなっておりますが特別な許可を得て、催行されるツアーです。

その中で「秘境八十里越体感バス 歴史コース（1泊2日便）」が河井継之助をテーマに作られたコースとなります。また、皆様の仕事関係で興味が湧くだろう「秘境八十里越体感バス 土木技術コース（1泊2日便）」もあります。このコースは、笠堀ダム、大谷ダム、田子倉ダム、只見ダムなどのダムや橋梁を視察するコースとなっております。

この2つ以外でも様々なコースが予定されておりますので三条市のホームページでご確認ください。（中越トラベルの宣伝ではありません）



赤坂古戦場跡



秘境八十里越体感バス
土木技術コース



5号橋梁

参考

三条市ホームページ 国道289号八十里越

<http://www.city.sanjo.niigata.jp/eigyo/page00127.html>

八十里越道路工事レポート（4号） 長岡国道事務所 三条国道出張所 平成30年1月

http://www.hrr.mlit.go.jp/chokoku/file/content/1801_kouzisinntyoku_hatizyuuri_kai.pdf

平成30年度（第36回） 北陸支部定時総会

〈広報部会〉

1. 開催概要

去る平成30年4月19日（木）新潟グランドホテルにおいて、平成30年度（第36回）北陸支部定時総会が開催されました。

総会は、会員・準会員企業54社から約120人の出席をいただき、出席会員の確認、総会成立宣言に続いて寺本支部長の挨拶がありました。

挨拶では、6年連続となった公共事業予算の増加や労務単価の上昇について触れ、「品確法に基づく公共事業の改善が着実に進んでいる」との認識を示しました。その一方で、業界全体にかかわる担い手の確保等の諸問題に対しては、「働き方改革の推進と公共事業の安定的・持続的な確保が必須」とし、地域への貢献と建設コンサルタント業界の発展のためには、業界の基盤強化が必要であり、そのための取り組みを協会として推進することを表明しました。



寺本支部長の挨拶

平成30年度（第36回）北陸支部定時総会〈概要〉

1. 支部長挨拶

2. 議事録署名人委託

議事録署名人

中央開発(株)北陸支店

支店長 片桐 芳隆 様

八千代エンジニアリング(株)北陸支店

支店長 光永 修 様

3. 議事

第1号議案 平成29年度事業報告

第2号議案 平成29年度収入支出決算報告
監査報告

第3号議案 平成30年度事業計画

第4号議案 平成30年度収入支出予算

※各議案とも原案通り承認されました。

2. 議事内容

その後議長より、議事録署名人が委嘱され議事に入りました。

議事では、平成29年度事業報告及び収入支出決算報告、平成30年度事業計画及び収入支出予算が提出されそれぞれ原案通り承認されました。

事業計画では、会員の技術力向上のための調査研究や、地域社会への貢献事業、関係官庁等との技術的問題に対する対応協議、受注実態調査など13の事業を中心に活動していくことを決定しました。各部会では、事業計画に基づき以下のような活動を実施する予定です。

○独占禁止法の遵守に関する特別部会

独占禁止法の遵守に関する講習会を開催します。

○対外活動部会

建設コンサルタントが抱える諸課題について、各発注機関との意見交換会を継続して実施します。

○技術部会

道路・トンネル、橋梁、河川・砂防、都市計画、建設環境の各委員会による技術講習会や現場見学会を開催して技術者の育成を図るほか、マネジメント、ICT、CIM等最新の情報を提供するセミナーを予定しています。

○広報部会

地域貢献の一環として、新潟、富山、石川の3地区で沿線美化活動を実施します。また、建設コンサルタントという仕事を知ってもらうための小・中・高校生を対象とした出前授業、就職を控えた大学生向けのPR活動を行う予定です。

○災害対策部会

9月3日（月）に本部・支部で防災演習を実施する予定です。



議事の様子

3. 講演会

講演会演題

演題

「インフラ投資を考える」

講師

一般社団法人全日本建設技術協会 参事 中神 陽一 様

内容

1. インフラ投資の変遷
2. インフラ投資の縮小と結果としての成長しない日本経済
3. フロンティアの喪失と金余り(低金利)
4. 投資資金の有効活用プロジェクトは？

総会終了後は、一般社団法人全日本建設技術協会参事の中神陽一様をお招きし、「インフラ投資を考える」という演題で、講演会を開催しました。



講師 中神陽一様

本講演では、インフラ投資の変遷を戦前から追跡し、国土の発展と経済成長に果たした役割をお話いただき、さらに現在のインフラ投資の縮小とその結果として成長が鈍化している日本経済の現状をわかりやすく解説していただきました。また、世界各国で進められるメガプロジェクトや、国内での新たな取り組みなど、大変貴重なお話をいただきました。

以上、平成30年度（第36回）北陸支部定時総会の概要をお知らせいたしました。

総会にて承認された事業計画の実施に当たっては、支部会員の皆様からのご支援、ご協力を賜り、円滑に実施していきます。



講演会の様子

平成29年度 「独占禁止法等遵守に関する講習会」報告

〈独占禁止法の遵守に関する特別部会〉

講習会の概要

平成30年2月13日、独禁法等に関する講習会を新潟市の興和ビルにて開催したので報告いたします。

当日は、会員64社のうち35社から役員10名、社員50名、計60名が参加されました。弁護士の平山勝也様には、法律・裁判の基本的な解釈にはじまり、独占禁止法の概要、最近の違反事例まで具体的に解説していただきました。

次第

1. 開会挨拶 支部長 寺本 邦一
2. 講演 「独占禁止法の概要
～最近の事例を踏まえて～」
平山法律事務所
弁護士 平山 勝也 氏
3. 閉会挨拶 総括部会長 青木 和之



寺本支部長の開会挨拶

平山弁護士の講演概要



講師：弁護士の平山勝也様

独占禁止法に関する最近の事例紹介ほか

講師を引き受けていただき今年で4年目となった弁護士の平山先生から、東日本大震災の舗装災害復旧工事に伴う「不当な取引制限」の事例のほか、地方銀行の経営統合に伴う「共同株式移転」が注目された事例について解説があった。

1) 不当な取引制限の禁止の事例

（他の事業者と共同して対価を決定・維持・引き上げし、又は数量、製品、設備若しくは取引の相手方を制限する等、相互にその事業活動を拘束することにより競争を実質的に制限をしてはならない）

東日本大震災発生後のNEXCO東日本東北支社の舗装災害復旧工事において、入札参加業者20社が共同して自社のアスファルトプラントに近い工区を落札できるように調整。具体的には、受注予定者が落札できるようにとの基本合意と、どこの事業者が受注するかといった個別調整がなされた。

⇒公正取引委員会は入札参加業者からは事前に談合等不正行為に関する誓約書も提出されていたため悪質であり、独禁法第3条の不当な取引制限の禁止に違反すると判断。その結果として20社に排除措置命令、11社に14億951万円の課徴金納付命令が出された。

入札参加業者が「一刻も早い災害復旧工事は国民の願いであり、国民の利益になる」「私利私欲ではない」といった認識を持ったところで、法の前ではそのような理由は成り立たないことがこの事例であらためて示された。

2) 共同株式移転の規制の事例

(一定の取引分野における競争を実質的に制限することとなる場合、又は不公正な取引方法によるものである場合は、会社が他の会社と共同株式移転をしてはならない)

地方銀行である第四銀行と北越銀行の経営統合に伴う共同株式移転は、新潟県の合算市場シェア約5割を超えるため、それ以外の銀行もあるものの競争性が保てないことが懸念される。

⇒公正取引委員会は、新潟県を10の経済圏に分けて、利用者である中小企業が困らないかを事業性の貸出しに着目、独禁法に違反しないかを審査。中小企業の借入先は、それ以外の銀行といった選択肢も十分にあり、一定の取引分野における競争を実質的に制限することとはならないと判断。その結果として両銀行に排除命令を行わないことを通知した。

当協会においても事業範囲の拡大を目的とした合併・経営統合のほか、様々な企業連携が活発化していますが、そのときに注意が必要と思われる事例として紹介された。

最後に

本講演では、前述の2つの事例にも共通していえることですが、「何が独占禁止法違反なのか明確ではない」「具体的に何が問題となるのか?」といった視点でこの法律を理解しようとする必要がある。また、この法律の難しいところは、各社の事業内容によっても違反ケースが異なるという点であり、そのためには法律の解釈だけでなく、ガイドラインの把握も含めた継続的な企業研修が最も大切であると最後に説明があった。

さらに、独禁法を違反した場合の「課徴金算定方法」「課徴金減免制度」について、具体的な説明もあり、参加者はより理解を深めることができたと思われます。前年にも増して非常にわかりやすい講演で、弁護士の平山勝也先生には、この場をお借りして感謝申し上げます。



青木総括部会長の閉会挨拶



講演会場の様子

気分もリセット 体もリセット

こんにちは、
日本エステティック協会
認定エステティシヤンの
宮崎夏海が
日々を健やかに過ごすための
ワンポイントをお教えます。
今回は…

基本のリラクゼーションアドバイス

睡眠

規則正しい生活を心がけましょう。特に大事なのは睡眠です。

十分な睡眠を取ることで、体は回復し、体内組織が正常化し、ストレスが緩和されます。

理想の睡眠時間は22:00～2:00の時間帯を含む7.5時間くらいです。

個人差はありますが、すっきり起きられる睡眠を目指しましょう。



角質

角質も爪と同じで老廃物です。ためこむといいことはありません。

足のうらの角質は、一気に取り除くとすると内側の赤い皮フが出てヒリヒリすることがあるので、毎日少しずつ軽石等でこすりましょう。

こすった後は乾燥しやすくなっているので、ハンドクリーム等のお手持ちのもので充分なので、保湿をしましょう。放っておくと、さらに硬くなるので気をつけて下さい。

日課にすれば、いつのまにか足裏美人 ✨



爪

爪先の白い部分は老廃物なので、短く保ちましょう。放っておくと爪の内側にゴミや垢がたまり、臭いの原因にも ✖

また、足の爪が長いまま靴をはくと、爪が靴の内側に当たり、痛みは感じなくてもかなり負担がかかります。それが足の疲れになることも ✖

足も手も深爪にならないように、短く清潔に保ちましょう。ネイルを楽しんでいる方は、長くてもいいので常にキレイに整えておきましょう。

きれいな手だと、幸せをつかみやすいですよ ✨



profile

宮崎 夏海

日本エステティック協会
認定エステティシヤン
リラクゼーションセラピスト



北陸支部活動報告

平成29年4月6日
北陸支部会計監査

場 所／北陸支部会議室
実施者／高堂支部監事、吉楽支部監事
立会者／高田運営委員長

平成29年4月6日
平成29年度第1回役員会

場 所／興和ビル会議室
議 題／平成28年度監査報告
第35回北陸支部定時総会議案について 他

平成29年4月10日
橋梁メンテナンス技術講習会打ち合わせ

場 所／北陸支部会議室
議 題／道路橋メンテナンス技術講習会について

平成29年4月17日
橋梁メンテナンス技術講習会打ち合わせ

場 所／新潟国道事務所及び新潟維持出張所
議 題／講習会会場（東部幹線水路橋）の使用について
出席者／南雲橋梁委員、松浦事務局長

平成29年4月18日
平成29年度インフラ再生技術者育成新潟地域協議会
第1回幹事会

場 所／長岡技術科学大学
出席者／渡邊技術部会長

平成29年4月19日
平成29年度北陸支部定時総会

場 所／新潟市内
総 会／第1号議案 平成28年度事業報告
第2号議案 平成28年度決算
監査報告
第3号議案 平成29年度事業計画
第4号議案 平成29年度予算
第5号議案 役員の選任
講演会／演題「建設界を取り巻く様々な情勢について」
講師 一般財団法人国土技術研究センター
業務執行理事 野田 徹 氏

平成29年4月27日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第1回協議会

場 所／北陸技術事務所
出席者／寺本支部長（代行 渡邊技術部会長）

平成29年4月27日
橋梁メンテナンス技術講習会打ち合わせ

場 所／北陸地方整備局
内 容／道路橋メンテナンス技術講習会実施計画について
出席者／渡辺橋梁委員長、南雲委員、松浦事務局長

平成29年5月8日
講師派遣
派遣先／金沢工業大学
派遣数／1名

平成29年5月9日
土木出張PRについて新潟県と打合せ

場 所／北陸支部事務局会議室
内 容／土木出張PRの取り組み方について
出席者／新潟県 瀬戸道路建設課長補佐、青木都市整備課
長補佐、石附政策企画員長
北陸支部 佐々木広報部会長、高橋広報委員長、松
浦事務局長

平成29年5月9日
広報部会

場 所／支部事務局
議 題／平成29年度事業計画について

平成29年5月10日
大学等PR活動（PR冊子配布）

場 所／富山県立大学
対応者／渡辺橋梁委員長

平成29年5月12日
講師派遣

派遣先／インフラ再生技術者育成講習会（ME養成講座）
派遣数／1名

平成29年5月15日
大学等PR活動（PR冊子配布）

場 所／新潟大学農学部
対応者／佐藤建設環境委員長

平成29年5月15日
大学等PR活動（PR冊子配布）

場 所／新潟工科大学
対応者／真島品質向上委員長

平成29年5月16日
大学等PR活動（PR冊子配布）

場 所／新潟大学理学部
対応者／小見都市計画委員長

平成29年5月16日
大学等PR活動（PR冊子配布）

場 所／新潟大学キャリアセンター
対応者／小見都市計画委員長

平成29年5月17日
大学等PR活動（PR冊子配布）

場 所／長岡技術科学大学
対応者／神田道路委員長

平成29年5月19日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場 所／長岡高等専門学校
対応者／須田河川及び砂防委員長

平成29年5月19日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場 所／石川高専環境都市工学科
対応者／木下道路委員

平成29年5月19日
講師派遣
派遣先／インフラ再生技術者育成講習会（ME養成講座）
派遣数／2名

平成29年5月19日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／2名

平成29年5月19日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／津南町立津南中学校
対応者／今野広報委員

平成29年5月23日
平成29年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会
場 所／北陸地方整備局
出席者／佐藤建設環境委員長

平成29年5月23日・24日
CIMハンズオン講習会（本部主催）
場 所／新潟市内
内 容／サテライト講習・パソコンによる実習
参加者／12名

平成29年5月24日
技術部会橋梁委員会
場 所／北陸支部会議室
議 題／平成29年度活動計画について
道路橋メンテナンス技術講習会実施について

平成29年5月25日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／十日町市立下条中学校
対応者／高橋広報委員

平成29年5月25日
大学等PR活動（説明会）
場 所／金沢工業大学
対応者／今度トンネル委員長

平成29年5月30日～6月2日
平成29年度道路橋メンテナンス技術講習会（本部主催）
場 所／新潟市内
内 容／サテライト講習 座学
現場実習（東部幹線水路橋）
受講者／33名

平成29年6月1日
平成29年度建設技術報告会実行委員会
場 所／新潟国道事務所
出席者／高橋広報委員長

平成29年6月1日
新潟県土木部主催「技術管理関係説明会」
場 所／新潟県庁西回廊大会議室
出席者／渡邊技術部会長、真嶋品質向上委員長、森品質向上委員

平成29年6月2日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会石川県部会
場 所／金沢河川国道事務所
出席者／新家副支部長

平成29年6月5日
広報部会会誌編集委員会
場 所／支部事務局
議 題／平成29年度発行計画等について

平成29年6月7日
技術部会都市計画委員会
場 所／金沢市内
議 題／平成29年度事業計画等について

平成29年6月8日
技術部会委員長会議
場 所／北陸支部会議室
議 題／平成29年度事業計画等について

平成29年6月8日
ふるまち防災フェスタ打合せ
場 所／北陸支部会議室
内 容／防災フェスタの内容確認及び準備

平成29年6月10日
ふるまち防災フェスタ出展展示
場 所／新潟市内
内 容／パネル出展、PR動画放映 他
対応者／広報部会員5名

平成29年6月13日
建設産業マンパワーアップセミナー
場 所／新潟県庁
支部発表／竹内WGリーダー

平成29年6月14日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／新潟県立荒川高等学校
対応者／飯田広報委員

平成29年6月15日
会誌「雪の音」Vol.130号発刊
担 当／広報部会 会誌編集委員会

平成29年6月15日
北陸支部会員名簿（平成29年6月）発刊
担 当／広報部会 会誌編集委員会

平成29年 6 月19日
平成29年度第 2 回役員会
場 所／興和ビル会議室
議 題／協会本部運営会議報告 他

平成29年 6 月20日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／長岡市立北辰中学校
対応者／高橋広報委員長

平成29年 6 月21日
大学等PR活動（説明会）
場 所／石川高専環境都市工学科
対応者／藤本道路委員、木下道路委員

平成29年 6 月22日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会新潟県部会
場 所／北陸地方整備局
出席者／大平副支部長

平成29年 6 月22日
北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県上越分科会
場 所／高田河川国道事務所
出席者／藤巻建設環境委員

平成29年 6 月23日
講師派遣
派遣先／インフラ再生技術者育成講習会（ME養成講座）
派遣数／1 名

平成29年 6 月25日
北陸支部石川事務所社会貢献活動
白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬一斉防除
場 所／白山国立公園
内 容／外来植物除去作業
参加者／46名

平成29年 6 月27日
第 2 回地山補強土工法他防災関連技術講習会（後援）
場 所／新潟市内
内 容／特別講演 南海トラフ連動地震を念頭に、
地盤力学の役割を考える
講師 浅岡 顕 氏
（公財）地震予知総合研究振興会
演題 地山補強土工法の概要について
講師 吉金 正益 氏
（PAN WALL工法協会）
講演 鉛直化施工と最新の切盛複合補強土壁
について
講師 山根 茉莉子 氏
（CAB WALL工法研究会）
演題 実務に役立つ設計と施工について
講師 西尾 信行 氏
（PAN WALL工法協会）
演題 マンホール浮上防止対策工法について
講師 吉本 勝彦
（WIDEセフティパイプ工法協会）

平成29年 6 月27日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会富山県部会
場 所／富山河川国道事務所
出席者／山本副支部長

平成29年 6 月27日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／小千谷市立東小千谷中学校
対応者／國兼広報委員

平成29年 6 月27日
技術部会建設環境委員会
場 所／金沢市内
議 題／平成29年度事業計画等について

平成29年 6 月29日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／関川村立関川中学校
対応者／飯田広報委員

平成29年 7 月 4 日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／十日町総合高等学校
対応者／高橋広報委員長

平成29年 7 月 4 日
大学等PR活動（説明会）
場 所／金沢大学
対応者／今度トンネル委員長、麻田トンネル委員

平成29年 7 月 4 日
コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム
2017新潟フォーラム（後援）
場 所／新潟市内
内 容／講師 鈴木 和弘 氏
（北陸地方整備局 企画部 技術調整管理官）
演題「北陸地方整備局の最近の取り組み」
講師 江良 和徳 氏
（コンクリートメンテナンス協会 技術委員長）
演題「劣化機構に応じたコンクリート補修の基本的な考え方」
講師 秋山 哲治 氏
（日本エルガード協会・CP工法研究会）
演題「電気防食技術の解説と応用」
講師 江良 和徳 氏
（コンクリートメンテナンス協会 技術委員長）
演題「亜硝酸リチウムを用いたコンクリート補修
技術－塩害・中性化・ASRを中心に－」
講師 五十嵐 数馬 氏
（セメント協会セメント系補修・補強材料推進WG）
演題「すぐに役立つセメント系補修・補強材の
基礎知識2017」
講師 中丸 大輔 氏
（日本ペイント(株) 顧客推進鉄構グループ）
演題「機能性塗料を用いた補修方法の提案～塗膜
型剥落防止工法と表面保護クリヤー工法～」
講師 野上 克宏 氏
（K.N.コンクリート診断事務所 所属）
演題「最近の点検・調査・診断技術
～橋梁点検調査を中心に～」

平成29年7月9日
長生橋80周年事業（ありがとう長生橋シンポジウム）
（協賛）

場 所／長岡市内
内 容／基調講演 稲川 明雄（河井継之助記念館 館長）
研究発表 大島小学校5年生児童
パネルディスカッション
コーディネーター：水流 潤太郎
（長岡市景観審議会委員長）
パネリスト：渡邊 誠介
（長岡造形大学 教授）
井林 康（長岡工業高等専門
学校 准教授）
大石 慶太郎
（長岡青年会議所 理事長）
並木 純子（長岡商工会議所
女性会 副会長）

平成29年7月11日
第16回社会資本整備セミナー（長野会場）

場 所／長野市内
内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 企画部
技術調整管理官 鈴木 和弘 氏
演題「北陸地域における水害とその対応」
講師（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部
河川及び砂防委員会
委員 阿佐美 敏和 氏

平成29年7月12日
第16回社会資本整備セミナー（新潟会場）

場 所／新潟市内
内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 企画部
地方事業評価管理官 倉重 毅 氏
演題「北陸地域における水害とその対応」
講師（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部
河川及び砂防委員会
委員長 須田 玲 氏

平成29年7月12日
北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県下越分科会

場 所／新潟国道事務所
出席者／若尾建設環境委員

平成29年7月12日
北陸橋梁撤去技術委員会

場 所／北陸地方整備局
出席者／渡邊技術部会長

平成29年7月12日
新潟地域委員会

場 所／北陸地方整備局
内 容／平成29年度意見交換会について

平成29年7月16日
新潟県中越地震10周年合同追悼式

場 所／柏崎市内
出席者／寺本支部長

平成29年7月20日
平成29年度インフラ再生技術者育成新潟地域協議会
第2回幹事会

場 所／長岡技術科学大学
出席者／渡邊技術部会長

平成29年7月20日
第16回社会資本整備セミナー（富山会場）

場 所／富山市内
内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 企画部
地方事業評価管理官 倉重 毅 氏
演題「北陸地域における水害とその対応」
講師（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部
河川及び砂防委員会 委員 林 達夫 氏

平成29年7月21日
第16回社会資本整備セミナー（金沢会場）

場 所／金沢市内
内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 企画部
技術開発調整官 山岸 達也 氏
演題「北陸地域における水害とその対応」
講師（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部
河川及び砂防委員会 委員 西川 幸成 氏

平成29年7月21日
けんせつフェア北陸 in 新潟2017第2回幹事会

場 所／新潟国道事務所
出席者／松浦事務局長

平成29年7月21日
コンクリートに関する3工法およびCIMガイドライン
説明会（共催）

場 所／新潟市内
内 容／演題「CIMガイドライン」の概要説明
講師（一社）日本建設業連合会北陸支部
インフラ再生委員会技術部会
委員 杉浦 伸哉 氏
講演「機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドラ
イン」の概要説明
講師（一社）日本建設業連合会北陸支部
土木工事技術委員会 コンクリート技術部会
委員 大友 健 氏
講演「現場打ちコンクリート構造物に適用する機械
式鉄筋継手工法ガイドライン」の概要説明
講師（一社）日本建設業連合会北陸支部
土木工事技術委員会 コンクリート技術部会
委員 浅井 宏隆 氏
講演「流動性を高めた現場打ちコンクリートの
活用に関するガイドライン」の概要説明
講師（一社）日本建設業連合会北陸支部
土木工事技術委員会 コンクリート技術部会
委員 谷口 裕史 氏

平成29年7月25日
平成29年度マネジメントセミナー（本部主催）
場 所／新潟市内
講 師 本部担当委員会委員
内 容／建設コンサルタントとマネジメント
PPP/PFIの政策動向と事例紹介
CM業務普及に向けて
マネジメントシステムを効率的に運用するために
建設コンサルタントの環境配慮マネジメント
品質の確保・向上に向けて
参加者／国5名、県12名、政令市10名、会員等92名
計119名

平成29年7月31日
北陸防災連絡会議幹事会（第1回）
場 所／北陸地方整備局
対応者／坂上運営委員長

平成29年7月31日
けんせつフェア北陸 in 新潟2017第2回実行委員会
場 所／新潟国道事務所
対応者／高橋広報委員長

平成29年7月31日
ほくりく防災・減災考座2017（後援）
場 所／新潟市内
内 容／講演 大規模災害時における警察の取り組み
講師 渡邊 幸治 氏（新潟県警察本部 警備部
警備第二課 災害対策管理官）
講演 近現代新潟県における災害の記憶と記録
講師 中村 元 氏（新潟大学 人文社会・教育
科学系学部 准教授）

平成29年8月1日
講師派遣
派遣先／新潟県土木部道路管理課
派遣数／1名

平成29年8月3日
北陸支部防災訓練打合せ
場 所／北陸支部会議室
内 容／9月1日に実施する訓練について

平成29年8月4日
道路・トンネル技術講習会
場 所／富山市内
内 容／“特別豪雪地帯”山形県長井市におけるラウンド
アバウト社会実験事例の紹介
奥城 洋 氏
（セントラルコンサルタント株式会社）
全国の特徴的なラウンドアバウトの事例紹介
（一社）建設コンサルタンツ協会 技術部会
道路専門委員会
参加者／47名

平成29年8月5日
富山県立大学 ダヴィンチ祭
場 所／富山県立大学
内 容／親子でのペーパーブリッジ作成、パネル展示、
協会動画上映

平成29年8月10日
「おやこで見学会」打合せ
場 所／北陸支部会議室
内 容／実施内容の確認及び準備

平成29年8月10日
平成29年度土木用コンクリート製品評価委員会
場 所／北陸地方整備局
対応者／渡邊技術部会長

平成29年8月16日
北陸支部防災訓練について北陸地方整備局と打合せ
場 所／北陸地方整備局
出席者／川村総括防災調整官、見田防災課長、伴課長補
佐、大筆運用企画係長
北陸支部 高橋広報委員長、松浦事務局長

平成29年8月17日
技術部会橋梁委員会
場 所／北陸支部会議室
議 題／技術講習会打合せ

平成29年8月18日
技術部会若手ワーキンググループ会議
場 所／金沢市内
議 題／今後の活動についての打合せ

平成29年8月19日
社会貢献活動「おやこで見学会」
（共催：信濃川下流河川事務所、新潟国道事務所、新潟市）
（後援：新潟県、新潟商工会議所、新潟日報社、ミズベリッ
やすらぎ堤研究会）
場 所／新潟市内
内 容／信濃川からみた「やすらぎ堤」「萬代橋」など
（乗船体験）
万代クロッシング（体験型実験など）
参加者／親子11組22名

平成29年8月20日
北陸支部富山事務所社会貢献活動
平成29年度ふるさと富山美化大作戦
場 所／富山市内
参加者／14会員22名

平成29年8月21日
講師派遣
派遣先／新潟県土木部道路建設課
派遣数／1名

平成29年 8月22日
平成29年度インフラ再生技術者育成新潟地域協議会
第2回協議会・第3回幹事会
場 所／北陸技術事務所
出席者／寺本支部長、渡邊技術部会長

平成29年 8月26日
羽越水害復興50年記念シンポジウム（協賛）
場 所／村上市内
内 容／講演「特別警報と気象災害への備え」
講師 天達 武史 氏（気象予報士）
パネルディスカッション
「羽越水害の経験に学び、
これからの防災をとともに考える」
パネリスト 平田 大六 氏（関川村長）
高橋 邦芳 氏（村上市長）
遠藤 友春 氏（村上市教育長）
長島 あさこ 氏
（防災士ママタレント）
コーディネーター 高橋 直子 氏
（新潟日報社論説員）

平成29年 8月27日
防災講演会 in 上市町（協賛）
場 所／上市町内
内 容／基調講演 最近の土砂災害の実態について
（一社）砂防フロンティア整備推進機構
理事長 亀江 幸二 氏
活動報告 砂災士の活動について
富山県防災士会
上市町からの報告 土砂災害ハザードマップの取り組み
について
上市町役場
災害対策を考える 山崎 列子 氏
（元かみいち総合病院 副委員長）

平成29年 8月28日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／4名

平成29年 8月29日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／3名

平成29年 9月1日
北陸支部防災訓練及び協会防災演習
場 所／北陸支部会議室
内 容／FAX及びメールによる情報伝達訓練
参加者／支部長、副支部長、災害対策部会、総括部会

平成29年 9月6日
平成29年度第3回役員会
場 所／新潟市内
議 題／協会本部運営会議報告 他

平成29年 9月6日
北陸ブロック意見交換会
場 所／新潟市内
出席者／北陸地方整備局 小俣局長 他10名
新潟県 鈴木技術管理課長 他1名
富山県 茂崎建設技術企画課主幹
石川県 浅田監理課技術管理室室長
新潟市 西脇技術管理センター所長 他1名
協会本部 村田会長 他12名
北陸支部 寺本支部長 他20名

平成29年 9月8日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／5名

平成29年 9月15日
橋梁現場見学会
派遣先／上信越自動車道
内 容／滝寺第二橋（連続2主版桁橋）
場所打ちPC床版の施工見学
二俣川橋（PCラーメン橋）張り出し架設見学
参加者／16名

平成29年 9月19日
新潟地域委員会
場 所／北陸支部会議室
内 容／平成29年度意見交換会について

平成29年 9月20日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／新発田市立川東中学校
対応者／國兼広報委員

平成29年 9月20日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／1名

平成29年 9月20日
情報セキュリティ講習会（本部主催）
場 所／東京都内（関東web開催）
内 容／情報セキュリティ対策について

平成29年 9月21日
技術部会建設環境委員会
場 所／北陸支部会議室
内 容／平成29年講習会の開催について

平成29年 9月28日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／十日町市立川西中学校
対応者／高橋広報委員

平成29年10月4日

セメント系固化材の利活用セミナー（後援）

場 所／新潟市内

内 容／講演「大規模災害に対してセメント系固化材による地盤改良が果たす役割

東京工業大学大学院

教授 北詰 昌樹 氏

講演「セメント系固化材の概要と適用事例調査について」

（一社）セメント協会 セメント系固化材普及専門委員会 委員長 齋藤 準護 氏

講演「セメント系固化処理工法の新しい改良形式について」

国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 地盤研究領域領域長 兼 土質研究グループ グループ長 森川 嘉之 氏

講演「発生土や分別土の利用と地盤環境への影響」
京都大学大学院 教授 勝見 武 氏

平成29年10月5日

第14回地盤調査法講習会（後援）

場 所／新潟市内

内 容／（１）ボーリング

（２）室内土質試験

（３）原位置試験（孔内水平載荷試験、サウンディング）

（４）PDC試験（ピエゾドライブコーン）

平成29年10月6日

女性・若手で考える「建設関連産業の未来」の集い（後援）

場 所／新潟市内

内 容／講演「マンパワーアップ小委員会の活動」

新潟大学 工学部社会基盤工学プログラム
准教授 大竹 雄 氏

発表 第一部 学生目線で考える建設関連産業の課題と将来への期待

第二部 現状の課題、そして魅力と将来への期待

パネルディスカッション

「建設関連産業での女性・若手が活躍するためのロードマップ」

平成29年10月11日

建設コンサルタンツ協会北陸支部主催 業務・研究発表会

場 所／新潟市内

内 容／基調講演「薄板モルタル供試体を用いたミクロ塩害環境の評価」

新潟大学工学部 社会基盤工学プログラム 佐伯 竜彦 教授

業務・研究発表 8編

学生講演 2編

参加者／143名

平成29年10月12日

講師派遣

派遣先／北陸地方整備局道路部橋梁初級研修
（既設橋の耐震補強設計）

派遣数／1名

平成29年10月13日

講師派遣

派遣先／北陸地方整備局道路部橋梁初級研修
（非破壊検査技術）

派遣数／1名

平成29年10月13日

新潟県立新潟工業高校出前講座

場 所／新潟国道事務所管内

内 容／見学 新潟中央環状道路、一般国道8号白根バイパス（ICT土工、軟弱地盤対策、擁壁、道路設計、平面交差点、道路付属施設、ボックス、EPS工法等）

座学 道路設計概論

平成29年10月13日

講師派遣

派遣先／インフラメンテナンス講習会（ME養成講座）

派遣数／1名

平成29年10月14日

長生橋80周年事業（長生橋のこれからを考えるシンポジウム）（協賛）

場 所／長岡市内

内 容／基調講演「長生橋の現状、課題、長寿命化に向けて」

国立大学法人長岡技術科学大学大学院
准教授 宮下 剛 氏

写真コンテスト

長生橋の魅力（ステキ）再発見写真コンテスト

パネルディスカッション

「長生橋のこれから～未来への橋渡し～」

平成29年10月15日

第28回土木フェスティバル（後援）

場 所／国営越後丘陵公園

内 容／屋内会場（暖の館）

土木／防災用パネル・模型などの展示

屋外会場（緑の千畳敷）

土木／防災用機械の展示・体験・実演

現場見学会

平成29年10月15日

会誌「雪の音」Vol.131号発行

担 当／広報部会 会誌編集委員会

平成29年10月18日

大学等PR活動（PR冊子配布及び説明会）

場 所／新潟大学工学部建設学科

対応者／樋浦情報委員長

平成29年10月18日・19日

まちづくりセミナー

場 所／浜松市役所

参加者／13名

平成29年10月20日

講師派遣

派遣先／インフラメンテナンス講習会（ME養成講座）

派遣数／1名

平成29年10月21日

新潟県立新潟工業高校生徒保護者との意見交換会

場 所／北陸地方整備局

内 容／生徒保護者11名との意見交換会

対応者／飯田 雅之 氏、山田 裕介 氏

平成29年10月24日

雪崩講習会（協賛）

場 所／長岡市内

内 容／講演「知っているようで知らない雪崩の話」

新潟大学 名誉教授 和泉 薫 氏

講習「雪崩対策の基礎」

(株)プロテックエンジニアリング

西田 陽一 氏

講習「雪崩対策の検討手順」

(株)アルゴス 渡辺 伸一 氏

講習「雪崩の調査方法と維持管理」

町田建設(株) 町田 敬 氏

講習「写真で見る雪崩の実態」

NPO法人なだれ防災技術フォーラム

新開 龍三郎 氏

平成29年10月25日

新潟県土木部との意見交換会

場 所／新潟市内

出席者／新潟県 美寺土木部長 他15名

北陸支部 大平副支部長 他11名

平成29年10月25日

平成29年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会中越分科会

場 所／長岡国道事務所

出席者／藤巻建設環境委員

平成29年10月26日

ICTセミナー（本部主催）

場 所／新潟市内

内 容／・CIM導入ガイドラインの概要

・i-Construction関連情報、SIM活用のユース
ケース

・OCF活動紹介、関連ソフト紹介

参加者／23名

平成29年10月26日・27日

第16回多自然川づくり北陸ブロック担当者会議（共催）

場 所／富山市内

内 容／分科会

基調講演「謎多き富山の水循環」

富山県立大学

准教授 手計 太一 氏

平成29年10月27日

講師派遣

派遣先／インフラメンテナンス講習会（ME養成講座）

派遣数／1名

平成29年10月27日

平成29年度契約のあり方講習会（本部主催）

場 所／新潟市内

内 容／「土木設計契約上の法的問題」

弁護士 大森 文彦 氏

参加者／87名

平成29年10月31日

社会貢献活動 土木出張PR

場 所／村上市立山北中学校

対応者／飯田広報委員

平成29年10月31日・11月1日

平成29年度道路・トンネル現場見学会

場 所／輪島道路（能越自動車道）、羽咋郡市門前基幹道
農道

内 容／見学 輪島道路－ICT土工、羽咋郡市門前基幹道
農道－雁木・北浦トンネル

参加者／13名

平成29年11月1日・2日

けんせつフェア北陸 in 新潟2017

場 所／新潟市内

内 容／・民間企業の新技術・新工法の展示・紹介

・民間企業の建設機械等の展示（屋外展示場）

・北陸地方整備局・石川県・富山県・新潟県の
事業・施設等を紹介

・「i-construction」に関連する展示技術の紹介

・県内建設企業と学生を対象とした「合同企業
セミナー」

平成29年11月2日

品質セミナー“エラー防止のために”（本部主催）

場 所／新潟市内

講 師／本部技術委員会照査特別WG委員

内 容／各セッションの調査・設計分野に現れるエラー
事例の紹介、技術的分析、並びに照査の具体的
改善について講義

参加者／国11名、県12名、会員89名 計112名

平成29年11月2日

講師派遣

派遣先／TEC－FORCE研修

派遣数／1名

平成29年11月5日
いしかわ「道の駅」フェス in 白山（後援）
場 所／白山市内
内 容／基調講演「道の駅」と地方創生
筑波大学 特命教授 石田 東生 氏
パネルディスカッション
情報発信拠点「道の駅」を活用した地域活性化

平成29年11月6日
大学等PR活動（説明会）
場 所／石川県立大学
対応者／西川河川及び砂防委員、稲葉建設環境委員

平成29年11月7日
第33回雪シンポジウム in 湯沢（後援）
場 所／湯沢町内
内 容／基調講演「雪国と食文化」
講師 岩佐 十良 氏（クリエイティブディ
レクター ㈱自遊人代表取締役）
パネルディスカッション
テーマ「雪国からの発信、そして連携」

平成29年11月8日
水文観測講習会（共催） 新潟地区
場 所／新潟市内
内 容／水文観測の必要性・重要性を中心とした基礎講
習会

平成29年11月8日・9日
講師派遣
派遣先／北陸地方整備局道路構造物管理実務者研修（トン
ネル）
派遣数／2名

平成29年11月8日・9日
建設環境委員会 技術セミナー
場 所／新潟市内
内 容／基調講演「越後平野の変遷とかがろうじて残された
潟群の保全～ラムサール都市・新潟に
向けて～」
講師 新潟大学 名誉教授（新潟市潟環境
研究所 所長） 大熊 孝 氏
現地視察 十二潟
案内人 NPO法人いろいろこ十二潟を守る会
理事張 山崎 敬雄 氏
現地視察 福島潟
案内人 ビュー福島潟 館長 佐藤 安男 氏
参加者／18名

平成29年11月9日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／1名

平成29年11月10日
講師派遣
派遣先／インフラメンテナンス講習会（ME養成講座）
派遣数／3名

平成29年11月10日
水文観測講習会（共催） 富山地区
場 所／富山市内
内 容／水文観測の必要性・重要性を中心とした基礎講
習会

平成29年11月10日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／1名

平成29年11月10日
講師派遣
派遣先／長岡高等専門学校
派遣数／1名

平成29年11月10日
講師派遣（オブザーバー）
派遣先／わかりやすいPC橋の施工技術研究会（新潟）
派遣数／1名

平成29年11月15日
新潟市との意見交換会
場 所／新潟市内
出席者／新潟市 本多土木部長 他12名
北陸支部 中俣新潟地域委員長 他12名

平成29年11月15日
独占禁止法等遵守に関する講習会（共催）
場 所／金沢市内
内 容／「入札談合と独占禁止法」
（公財）公正取引協会
客員研究員 相馬 哲夫 氏

平成29年11月15日
富山県景観づくりフォーラム2017（後援）
場 所／富山市内
内 容／表彰式「うるおい環境とやま賞」
「景観広告とやま賞」
講演「富山の新しい視点場」
建築家・東京大学 名誉教授
内藤 廣 氏

平成29年11月16日
大学等PR活動（説明会）
場 所／長岡工業高等専門学校
対応者／真嶋品質向上委員長、須田河川及砂防委員長

平成29年11月17日
講師派遣（オブザーバー）
派遣先／わかりやすいPC橋の施工技術研究会（金沢）
派遣数／1名

平成29年11月17日
講師派遣
派遣先／インフラメンテナンス講習会（ME養成講座）
派遣数／1名

平成29年11月19日
大河津分水講演会2017
横田切れから120年を越えて 未来の河川防災を知る
(後援)

場 所／三条市内
内 容／「超過洪水に対応するには
～持続可能な流域管理を考える～」
玉井 信行 氏(東京大学 名誉教授)
「昔の洪水と現代の出水から、
未来の洪水を考える」
早川 典生 氏
(信濃川大河津資料館友の会 理事長)
「大河津分水路改修工事について」
田部 成幸 氏
(北陸地方整備局 信濃川河川事務所長)

平成29年11月22日
大学等PR活動(説明会)

場 所／長岡技術科学大学
対応者／神田道路委員長、小見都市計画委員長

平成29年11月22日
講師派遣

派遣先／インフラメンテナンス講習会(ME養成講座)
派遣数／1名

平成29年11月24日
Made in 新潟 新技術(土木・建築)展示・発表会
(共催)

場 所／新潟市内
内 容／優秀技術表彰・発表
国土技術開発賞 受賞技術発表
特別講演「AI・IoTによる新時代の到来」
メディアスケッチ(株) 代表取締役
兼 サイバー大学客員 講師
伊本 貴士 氏
技術発表 6社
展示技術 35社78技術のパネル・製品等展示

平成29年11月28日
平成29年度建設技術報告会

場 所／新潟市内
内 容／技術報告、技術パネル等展示
基調講演「生産性向上のカギはこれだ！」
(株)大林組 土木本部長室
情報技術推進課長 杉浦 信哉 氏

平成29年11月29日
防災講演会(後援)

場 所／新潟市内
内 容／講演「災害の教訓と対策」
前 国土交通省管理・国土保全局
砂防部長 西山 幸治 氏

平成29年11月30日
社会貢献活動出前講座

場 所／新潟市立東青山小学校
出席者／佐々木広報部会長、高橋広報委員長、橋本事務局員

平成29年11月30日
平成29年度第4回役員会

場 所／新潟市内
議 題／協会本部運営会議報告 他

平成29年11月30日
北陸地方整備局との意見交換会

場 所／新潟市内
出席者／北陸地方整備局 渡辺企画部長 他6名
北陸支部 寺本支部長 他21名

平成29年11月30日・12月1日
GIS講習会

場 所／川崎市内
内 容／SIS初級編 参加者5名
SIS中級編 参加者4名

平成29年12月2日
防災平成29年度応用生態工学 富山勉強会(後援)

場 所／富山町内
内 容／現地見学会 イタセンバラ保護池
講演1 氷見市教育委員会
主任学芸員 西尾 正輝 氏
講演2 NPO自然環境ネットワーク・射水市ビ
オトープ協会 岡田 一雄 氏

平成29年12月6日
平成29年度第5回役員会

場 所／新潟市内
議 題／平成30年度事業計画及び予算 他

平成29年12月6日
独占禁止法の遵守に関する特別部会会議

場 所／新潟市内
議 題／平成29年度の活動状況等について 他

平成29年12月6日
総括部会会議・災害対策部会合同会議

場 所／新潟市内
議 題／平成29年度の災害対応等について 他

平成29年12月6日
技術部会委員長会議

場 所／新潟市内
議 題／平成29年度の活動状況等について 他

平成29年12月6日
広報部会会議

場 所／新潟市内
議 題／平成29年度の活動状況等について 他

平成29年12月6日
協会本部木谷副会長講演会

場 所／新潟市内

内 容／演題「建設コンサルタントを巡る最近の動向」

平成29年12月6日
建設業界合同事業説明会

場 所／長岡技術科学大学

出席者／松尾若手技術者WG

平成29年12月11日
建設業界合同事業説明会

場 所／新潟大学

出席者／伊藤品質向上委員

平成29年12月14日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会石川県部会

場 所／金沢河川国道事務所

出席者／新家副支部長

平成29年12月14日・15日
平成29年度梯川堤防開削現地検討会（共催）

場 所／小松市内

内 容／現地検討会 堤防開削における現地調査、状況確認

合同勉強会「近年の浸透による被災事例から得られた知見と調査の重要性」

講師 国利研究開発法人土木研究所
主任研究員 石原 雅規 氏

参加者／26名

平成29年12月25日
建設界担い手・育成に係る出前講演

場 所／金沢大学

出席者／笹谷運営委員、白井 淳子 氏

平成29年12月25日
平成29年度第5回インフラ再生技術者育成新潟地域協議会幹事会

場 所／新潟大学工学部

対 応／渡邊技術部会長

平成29年12月26日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会富山県部会

場 所／富山河川国道事務所

出席者／山本副支部長

平成29年12月26日
けんせつフェア北陸 in 新潟2017第3回実行委員会・幹事会

場 所／新潟国道事務所

出席者／高橋広報委員長、松浦事務局長

平成30年1月13日
防災まちづくりセミナー
糸魚川市駅北大火を教訓にしたまちづくり
～火災に強いまちをつくるために求められること～

場 所／新潟市内

内 容／講演「戦後の都市大火の推移とその要員について
～糸魚川市駅北大火から何を学び、どう備えるか～」

講師 関澤 愛 氏（東京理科大学大学院 国際
火災科学研究科 教授）

平成30年1月16日
第17回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／長野市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局

地方事業評価管理官 倉重 毅 氏

演題「社会資本の維持管理に関する研究について」

講師 国土技術政策総合研究所

社会資本マネジメント研究センター 担当官

平成30年1月17日
「防災とボランティア週間」講演会（後援）

場 所／新潟市内

内 容／講演「平成29年度のTEC-FORCE活動」

講師 国土交通省補機陸地方整備局 企画部

事業調整官 渡邊 昌彦 氏

演題「被災地での災害支援活動～多様性のある
災害ボランティアとの協働～」

講師 ㈱野村防災 代表取締役／同取締役

野村 祐太 氏／野村 卓也 氏

平成30年1月18日
第3回北陸土木コンクリート製品技術協会との意見交換会

場 所／新潟市内

出席者／北陸土木コンクリート製品技術協会 吉田専務
理事 他10名

建設コンサルタンツ協会北陸支部 坂上運営委
員長 他10名

平成30年1月18日
第17回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／新潟市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局 企画部

技術調整管理官 鈴木 和弘 氏

演題「社会資本の維持管理に関する研究について」

講師 国土技術政策総合研究所

社会資本マネジメント研究センター 担当官

平成30年1月18日
社会貢献活動 土木出張PR

場 所／魚沼市立堀之内中学校

対応者／芳野広報委員

平成30年1月22日

橋梁技術講演会（共催）

場 所／新潟市内

内 容／演題「海外情報」

講師1「イズミット橋の工事報告」

～上下部一括デザインビルドによる長大吊橋の建設～

(株)IHIインフラシステム 海外プロジェクト室
エンジニアリング部 島 宜範 氏

講師2「ミャンマーにおける鋼橋市場動向」

JFEエンジニアリング(株) 社会インフラ本部
海外事業部 技術部計画室
室長 猪村 康弘 氏

講師3「ミャンマーにおける損傷吊橋の性能評価
と維持管理」

東京大学 生産技術研究所
准教授 長井 宏平 氏

演題「鋼橋の腐食・防食と維持管理」

講師 長岡技術科学大学大学院 工学研究科
環境社会基盤工学専攻 教授
北陸鋼橋技術研究会 副代表
岩崎 英治 氏

参加者／100名

平成30年1月22日

第17回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／金沢市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局 企画部
技術開発調整官 山岸 達也 氏

演題「社会資本の維持管理に関する研究について」

講師 国土技術政策総合研究所
社会資本マネジメント研究センター 担当官

平成30年1月23日

平成29年度インフラ再生技術者育成新潟地域協議会 第3回協議会・第6回幹事会

場 所／新潟市内

出席者／寺本支部長、渡邊技術部会長

平成30年1月23日

第17回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／富山市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局 企画部
技術開発調整官 山岸 達也 氏

演題「社会資本の維持管理に関する研究について」

講師 国土技術政策総合研究所
社会資本マネジメント研究センター 担当官

平成30年1月25日

Made in 新潟（土木・建築）説明会 in 上中下越（共催）

場 所／上越会場

内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介

平成30年1月25日

建設ICT勉強会（共催）

場 所／長岡市内

内 容／演題 安全管理と働き方改革

講師 厚生労働省新潟労働局長岡労働基準監督署

演題 北陸地方整備局におけるi-constructionの
取り組み

講師 国土交通省北陸地方整備局

演題 最新の圧入工法及び圧入施工の自動化

講師（一社）全国圧入協会

平成30年1月26日

社会貢献活動 土木出張PR

場 所／魚沼市立広神中学校

対応者／芳野広報委員

平成30年1月31日

社会貢献活動 土木出張PR

場 所／五泉市立川東中学校

対応者／高橋広報委員長

平成30年1月31日

北陸地方建設事業推進協議会工事施工対策部会

場 所／北陸地方整備局

出席者／渡邊技術部会長（代理）

平成30年2月1日

北陸地方建設事業推進協議会新施策促進普及部会

場 所／北陸地方整備局

出席者／渡邊技術部会長

平成30年2月1日

新潟県土木部等との「土木出張PR」意見交換会

場 所／新潟県庁

出席者／佐々木広報部会長、高橋広報委員長、松浦事務
局長

平成30年2月1日

Made in 新潟（土木・建築）説明会 in 上中下越（共催）

場 所／中越会場

内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介

平成30年2月8日

Made in 新潟（土木・建築）説明会 in 上中下越（共催）

場 所／下越会場

内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介

平成30年2月13日

独占禁止法等遵守に関する講習会

場 所／新潟市内

内 容／独占禁止法の概要～最近の事例を踏まえて～

平山勝也法律事務所 弁護士 平山 勝也 氏

参加者／69名

平成30年2月13日
「北陸の建設技術」第2回編集委員会
場 所／新潟市内
出席者／齋藤会誌編集委員

平成30年2月15日
会誌「雪の音」Vol.132号発刊
担 当／広報部会 会誌編集委員会

平成30年2月16日
大学等PR活動（説明会）
場 所／金沢大学
対応者／今度トンネル委員長、麻田トンネル委員

平成30年2月23日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／新潟県立栃尾高等学校
対応者／今野広報委員、飯田広報委員

平成30年2月26日
北陸防災連絡会議第2回専門部会
場 所／北陸地方整備局
出席者／青木総括部会長

平成30年2月26日
富山県土木部との意見交換会
場 所／富山市内
出席者／富山県 水口土木次長 他10名
北陸支部 山本副支部長 他9名

平成30年3月8日
平成29年度第6回役員会
場 所／新潟市内
議 題／協会本部運営会議報告 他

平成30年3月8日
協会本部との意見交換会
場 所／新潟市内
議 事 平成30年度要望と提案について 他

平成30年3月16日
平成29年度北陸ICT戦略推進委員会
場 所／北陸地方整備局
対応者／渡邊技術部会長

平成30年3月17日
大河津分水路改修事業起工式典
場 所／長岡市内
対応者／寺本支部長

平成30年3月23日
平成29年度土木用コンクリート製品評価委員会
場 所／北陸地方整備局
対応者／渡邊技術部会長

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

会 員 名 簿

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
朝日航洋(株)	北陸空情支社	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計(株)		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測(株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
(株)アスコ大東	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740
(株)アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ(株)		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ(株)	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル8F	025-241-0283 025-243-5650
(株)エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー(株)		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
大原技術(株)		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
応用地質(株)	新潟支店	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
(株)オリエンタルコンサルタンツ	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 ブレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建(株)		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
(株)開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質(株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
北建コンサル(株)		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
(株)キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
(株)協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
(株)クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
(株)クレアリア	新潟営業所	950-0916 新潟市中央区米山4-2-16 キャッスル米山	025-248-2205 025-248-2206

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)計画情報研究所		920-0025 金沢市駅西本町2-10-6	076-223-5445 076-223-4144
(株)建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
建設技研コンサルタンツ(株)		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル7F	025-285-6437 025-280-9750
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 NBF新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
(株)建設技術センター	新潟営業所	950-0028 新潟市東区小金台9-9 202号室	025-250-8002 025-250-8004
(株)構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 ブレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
(株)国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発(株)		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950
(株)上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
(株)新日本コンサルタント		930-0142 富山市吉作910-1	076-436-2111 076-436-3050
相互技術(株)		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本コンサルタント(株)	北陸支社	930-0175 富山市願海寺633	076-436-7855 076-436-6030
(株)ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山4-1-24	025-234-2110 025-234-2111
館下コンサルタンツ(株)		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
(株)中部コンサルタント		933-0866 高岡市清水町3-5-9	0766-21-4536 0766-22-4370
(株)長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
(株)東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曾根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
(株)東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁212-1	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント(株)		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
(株)ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区綱川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
(株)日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営(株)	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21 4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3 6F	025-247-1341 025-246-1005
(株)パスコ	新潟支店	950-0916 新潟市中央区米山3-1-63	025-243-0051 025-241-8654
(株)プラネット・コンサルタント		920-0017 金沢市諸江町下丁372	076-255-0630 076-255-0672
北電技術コンサルタント(株)		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント(株)		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント(株)	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8 東大通野村ビル	025-244-2503 025-244-2573
(株)村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
(株)村尾地研		939-8262 富山市塚原150	076-429-2511 076-429-2603
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社) 北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財) 新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

各部会・委員会委員名簿

北 陸 支 部 役 員			
支部理事	支部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副支部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	副支部長	山 本 信 二	大日本コンサルタント(株)
〃	副支部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	運営委員長	坂 上 悟	開発技建(株)
〃	運営委員	黒 木 康 生	(株)日本海コンサルタント
〃	運営委員	瀬 川 光太郎	(株)建成コンサルタント
〃	運営委員	原 文 宏	(株)建設技術研究所
〃	運営委員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	運営委員	齊 木 勝	(株)キタック
〃	運営委員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
支部監事	支部監事	高 堂 景 寿	相互技術(株)
〃	支部監事	船 谷 喜代文	旭調査設計(株)

独 占 禁 止 法 の 遵 守 に 関 す る 特 別 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
	部会員	大 平 豊	エヌシーイー(株)
	部会員	山 本 信 二	大日本コンサルタント(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会員	齋 藤 真 晴	開発技建(株)
	部会員	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
	部会員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
	部会員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター

対 外 活 動 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
	部会員	大 平 豊	エヌシーイー(株)
	部会員	山 本 信 二	大日本コンサルタント(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会幹事	坂 上 悟	開発技建(株)
	部会員	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
	部会員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
	部会員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
	部会員	矢 田 弘	(株)東京建設コンサルタント
	部会員	渡 部 長 務	エヌシーイー(株)

新潟地域委員会	委員長	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
〃	委 員	山 岸 守	開発技建(株)
〃	委 員	船 谷 喜代文	旭調査設計(株)
〃	委 員	齊 木 勝	(株)キタック
〃	委 員	大 塚 明	エヌシーイー(株)
〃	委 員	折 笠 昇	(株)開発技術コンサルタント
富山地域委員会	委員長	山 本 信 二	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	竹 腰 直 治	北建コンサル(株)
〃	委 員	吉 田 勉	(株)上智
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	榮 知 之	北陸コンサルタント(株)
石川地域委員会	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	委 員	高 嶋 智 晴	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント

総 括 部 会			
	部会長	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
	部会員	佐 藤 浩	(株)開発技術コンサルタント
	部会員	清 原 宏 二	開発技建(株)
	部会員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
	部会員	浦 正 光	(株)日本海コンサルタント
	部会員	佐 藤 雄 一	(株)構造技研新潟

技 術 部 会			
	部会長	渡 邊 雅 樹	開発技建(株)
道路委員会	委員長	神 田 和 久	開発技建(株)
〃	委 員	木 村 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	首 藤 直 樹	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	木 下 裕 康	(株)国土開発センター
〃	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	藤 本 勇 一	(株)東洋設計
〃	委 員	池 渕 稔	東京コンサルタンツ(株)
橋梁委員会	委員長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	近 藤 治	開発技建(株)
〃	委 員	渡 邊 敦	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 竹 滋	(株)キタック
〃	委 員	南 雲 浩	(株)構造技研新潟
〃	委 員	浦 修 造	(株)国土開発センター
〃	委 員	鷹 西 輝	(株)東洋設計
〃	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント

河川及び砂防委員会	委員長	須 田 玲	エヌシーイー(株)
〃	委 員	阿左美 敏 和	(株)建設技術研究所
〃	委 員	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
〃	委 員	浜 谷 智	五大開発(株)
〃	委 員	太 原 晶	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	坂 上 松 則	開発技建(株)
〃	委 員	金 子 幸 生	相互技術(株)
〃	委 員	伊 藤 正 喜	(株)開発技術コンサルタント
トンネル委員会	委員長	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	須 貝 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	江 川 千 洋	(株)キタック
〃	委 員	雪 田 真 吾	サンコーコンサルタント(株)
〃	委 員	辻 本 勝 彦	(株)国土開発センター
都市計画委員会	委員長	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
〃	委 員	佐 藤 吉 一	開発技建(株)
〃	委 員	莊 司 洋 文	(株)キタック
〃	委 員	新田川 貴 之	(株)国土開発センター
〃	委 員	酒 井 信 次	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	埴 正 浩	(株)日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	佐 藤 朗	開発技建(株)
〃	委 員	稲 葉 弘 之	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	若 尾 明 弘	エヌシーイー(株)
〃	委 員	高 橋 靖	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	西 暢 人	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	平 野 博 範	(株)国土開発センター
〃	委 員	藤 卷 英 俊	大原技術(株)
品質向上委員会	委員長	真 嶋 利 寿	エヌシーイー(株)
〃	委 員	伊 藤 信 哉	開発技建(株)
〃	委 員	森 将 恒	(株)キタック
〃	委 員	西 村 治	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	若 林 修	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	野 村 尚 樹	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	山 森 茂 明	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	高 橋 辰 夫	(株)開発技術コンサルタント
情報委員会	委員長	樋 浦 慎	開発技建(株)
〃	委 員	岩 淵 和 有	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 塚 秀 行	(株)キタック
〃	委 員	加 藤 毅	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	渡 辺 浩 二	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	安 藤 正 幸	(株)日本海コンサルタント

若手技術者ワーキンググループ	リーダー	竹 内 聡	開発技建(株)
〃	サブリーダー	片 岸 将 広	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	七郎丸 一 孝	(株)国土開発センター
〃	委 員	伊 藤 裕 章	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	松 尾 内 助	(株)キタック
〃	委 員	山 田 知 広	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	福 崎 正 和	(株)構造技研新潟
〃	委 員	風 間 恵	相互技術(株)
〃	委 員	飯 野 美 樹	エヌシーイー(株)

広 報 部 会			
	部会長	佐々木 大 介	(株)ナルサワコンサルタント
広報委員会	委員長	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	委 員	浜 辺 良 彦	相互技術(株)
〃	委 員	今 野 健	エヌシーイー(株)
〃	委 員	高 橋 宏 明	開発技建(株)
〃	委 員	飯 田 互	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	坂 原 徹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	大 蔵 欣 司	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	島 由 治	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	新 家 哲 平	(株)国土開発センター
〃	委 員	榊 原 稔	(株)建設技術研究所
〃	委 員	國 兼 功	八千代エンジニアリング(株)
会誌編集委員会	委員長	須 藤 勝 彦	(株)国土開発センター
〃	委 員	熊 倉 孝 次	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
〃	委 員	長 田 宏 之	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	水 野 慎 介	(株)日本海コンサルタント

災 害 対 策 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
新潟現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	技術総括指揮者	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	副責任者	木 村 幸 雄	開発技建(株)
富山現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	山 本 信 二	大日本コンサルタント(株)
〃	技術総括指揮者	初 鹿 明	大日本コンサルタント(株)
〃	副責任者	林 達 夫	大日本コンサルタント(株)
石川現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	技術総括指揮者	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	副責任者	西 川 幸 成	(株)国土開発センター

顧 問			
		藤 巻 俊 二	開発技建(株)

編集後記

今年で、広報部会会誌編集委員会の委員になって11年目を迎えました。

昨年までの10年間では、Vol.96～Vol.132の編集にたずさわって来ました。

その中で一番の思い出は、Vol.115（平成24年6月15日発行）からカラー印刷に変わり、特集記事などの写真が鮮明になり、見やすくそして迫力ある「雪の音」を発行できるようになったことです。

また、今号から新しく連載を始める「気分もリセット 体もリセット」（執筆者：宮崎夏美様）も楽しんでいただければ幸いです。

今後も「雪の音」を読者の皆様に長くご愛読いただけるように、創意工夫していきたいと考えています。

齋藤浩幸

発 行 / 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長 / 須藤勝彦

委 員 / 齋藤浩幸 熊倉孝次 長田宏之 水野慎介



発 行

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371
<http://hr-jcca.jp/>